



# 大人の趣味の 勧め



pinokopapa

この年になると、もう色々なことから開放されています。仕事からも子育てからも。そして、幸いにして私は住宅ローンなどの借金からも開放されています。それを、自分は何からも必要とされていないと思っはならないと考えています。外側に自分の意義を求めてはおかしくなります。

例えば、前回は、もし何かで報道されることがあったらと、6\*才、無職としましたが、これっておかしいとは思いませんか。自分の職業が何ほどの身分の証しになっているかのような位置づけです。職業が社会的地位を現しているという暗黙の身分差別の現われと見えます。事件の被害者であるならば、こういう犯罪の被害者であるといえは済みます。こんな社会的地位の人という事とは関係ないことです。

ところが、主婦とか幼稚園児といえは、その個人のことになり、あまり職業とは関係ない子へになります。男だけ、無職といわれ、それにひがむのはひねくれ根性でしょうか。逆に、男は結局職業で測られるのでしょうか。割に合わない気がします。なんにも属さない気楽な余生をたくらんでいると、気が引ける場面も想像してしまいます。

とにかく、手作りと銘打ちました。昔流で言えは、通信販売で、今風ではネット販売で、真空管アンプキットを申し込みました。大人買いです。真空管は二本、電源トランスに出力トランスが二個の一番小さな組み立てアンプです。用意した道具は半田小手、ドライバー各種、ニッパー、ボックスドライバーなど。後は到着を待つばかりです。これを、完全に失業したら組んでみようと思しみにしています。じゃあ、組みあがったらどうするんだと言う事ですが、まだ何もかんがえておりません。先ずスピーカーが二個あります。入力装置としても何かが必要です。昔ならレコードプレイヤー。あのトーンアールの付いた、ターンテーブルが回る、あれです。カートリッジはMMカートリッジがゲインが大きくて、出力の小さなアンプには向いているが、MCカートリッジはより繊細な音が拾えると、そんな知識で私の頭は止まっていますから、考え付かないのです。デジタル音源をネットでダウンロードして、USBメモリーにコピーし、それをアンプに繋ぐ、それって大丈夫？CDプレイヤーならまだ解るけどなあ。いまはいきなりスマートホーンを直結するんだってねえ。解るかなあ。などと思っています。が、とにかくアンプです。うまく組めたかどうかは判定のしようがありませんが、ポツと真空管の点るのをみて安らぎたいと思っています。

今の日本の品物って、詰まらないと思いませんか。前回のCDプレイヤーと、レコードプレイヤーを思い出して頂けたらよくわかると思います。今のCDプレイヤーはCD板をちょっと挿入口に入れると、勝手に引っ張り込んでおもむろに演奏し始めてしまいます。レコードはこうは行きません。まずスイッチを入れ、ちょっと回して、回転を安定させなくてははいけません。で、その間にレコードに静電気防止スプレーを吹きかけ、レコード拭きでごみをふき取ります。そうしないとスクラッチ音がバチバチ鳴りますし、レコード自体の寿命も短くなります。そして、トーンアームの先の針を点検し、ごみが付いてたら吹き飛ばさなくてはなりません。そうこうしてると、ターンテーブルもアンプも温もってきて丁度よくなり、おもむろにレコードを乗せ、となるわけですが、その前にアンプのボリュームを下げておきます。そうしないと、針を置いたとき、ボツっという大きな音が入ります。そこで、まずボリュームを下げ、それから針を落として、アンプのボリュームを徐々に上げます。なんと手間のかかる事でしょう。CD板をポイとは大違い。音質だって大違いです。昔のものは今のCDラジカセにも及ばないステレオ装置でありました。しかし、思うに、手間暇かけるその手順に心わくわくさせるものがあつたようにおもいます。人間の手が入る余地があり、うまいへたがあり、蘊蓄が語れました。今の日本の作り出したものは、どこまでも機能を追及し、便利一辺倒になって、人の入る余地がなくなりました。新幹線もすばらしいが、デコイチもいいじゃありませんか。機械で作るものもいいですが、ちょっと手作りして見ませんか。この暮れ、一歳になったばかりの孫が帰ってきます。この子の座る椅子を作ろうと思っています。・・・、しかし、孫を座らせてくれないかもしれない。座って壊れて怪我するって。娘、きついですから。

スマートフォンが今話題ですが、あれは便利です。いろんな機能が詰め込まれています。電話機能がおまけみたいで。地図機能がナビゲーター、カメラが付いて名所案内、翻訳機能も付いてます。海外へ行くなら、これ一台といった感じです。ほしい！と思うのですが、なにもかも一つに集約されていて、首を傾げてしまいます。この機能は翻訳機ってあったよね、カーナビと一緒に？ウォークマンかぁ、ゲーム機？電話にメールも出来ますとは、これってモバイルフォン？多分持ち運びのPCで、クラウドのアイデアもむかしあったよね。でもこれは、その発展形だといえるよねえ。なにもかもを詰め込んだ手腕はすばらしい。この一台で世界とつながれるし、じっと画面を見詰めて独りにもなれる。地下鉄の中でじっと画面を見続けている人、一人ひとりの前に仮想空間が広がっています。なにか空恐ろしいものを感じませんか。ツイッターの中では罵りあい、フェイスブックの中は善人だらけ。著作権無用のYOU TUBE。

どう使うかは本人次第。しかし都会の電車の中の、席に座っている殆どの人が、携帯やらスマートフォンの画面を一斉に見ている風景は奇妙に見えました。人間復権！そう叫びましょう。コンビニやスタバ、ファストフード店の、～～になりまーす、\*\*えんから、おあずかりいたしまーすを咎めましょう。マニュアルどおりの言葉使いが何かを破壊しています。その何かがとても大事だと思うからです。

今、自作PCと言うのがありますが、これは昔の真空管アンプの組み立てより簡単で、半田付けの技術ほどの難しさはないようです。しかし、日本人で、この手のことが大好きみたいだと推測しますが、どうでしょうか。

昔、スピーカーを作ったことがありました。ダイヤトーン、ロクハン、フルレンジスピーカーと言って、わかる人はかつて相当のオーディオマニアとお見受けします。三菱電機が作った16cm径シングルコーンのスピーカーで、NHKのスタジオモニターにも採用されていた・・・はずの名機です。フルレンジのシングルコーンですから、2ウェイ、3ウェイのように面倒くさくはなく、狭いレンジのソースには非常にバランスのいい音が楽しめました。例えばブルーノートのジャズなんかは、JBLスピーカーほど締りはないけれど、艶やかで華麗に鳴りました。しかし、ブックシェルフスピーカーとしてスピーカーボックスを組むと音が殺され、豊かさが消えます。比較的大きな箱にして、バックロードホーンを付けると、ジャズが良かった。オーケストラはちょっと広がり難がありました。そして人声はつやつやと自然そのもので、アリヤが朗々と聞こえました。

しかしそれも、アンプがトランジスターに変わって、再生できる音のレンジがどんどん広がってくると、追いつかなくなりました。2ウェイ、3ウェイスピーカーが登場し、トウイター、スクーカー、ウーファーの構成のスピーカーから出るベースドラムの低音とハイハットシンバルの響きにはびっくりしました。新し物好きで、高機能好きは、自分もそうだと感じます。

それが、最近はそのロクハンスピーカーの音が懐かしいのです。シャンシャンとハイハットが響かなくてもいいんです。つい最近タンノイのスピーカーの音を聞いてしまいました。大分古い機種でした。JBLパラゴンまで聞いてしまいました。アンプはラックスマン。勿論真空管アンプ。それで聞いたビッチェズブリューが深い！とても手の届くものではないし、望みもしません。もう一度プアーなセットで、アラウンド ミッドナイトを聞こうと思いました。CDなら持っていますから。

## 大人の趣味の勧め 5

---

もう説明も要らない、冬の夜の楽しみです。写真さえ見れば一目瞭然の趣味の世界です。しかもこれらは全部個人の方のイルミネーションですから大したものですよ。わたしは、もっぱら探し回って楽しんでます。



上の写真は、メインの道路から少し入ったオタクのイルミネーションです。真ん中の塔のような部分がゆっくりと点いたり消えたりしてすがすがしいものでした



これは、実際の方が大きくて可愛いです。子供さんでもいらして、楽しんでいるのかと思いました。



このイルミネーションはとても大きくて、遠くからでないと全貌は写せませんでした。また、その性でぼけてます。テレビが取材に来るそうですから、想像がつくかと思います。

申し訳ございません。これらは全部多度津町のものでした。善通寺の定点観測員が、よこへずれました。でも、綺麗ですね。もう少し捜してみます。たしか～、あそこらあたりにも・・・。

申し訳ありません。写真が手振れしています。しかし、大きなイルミネーションであることは解ってもらえると思います。



下の写真もこのイルミネーションの一部です。各パーツが凝っていて、子供が見るとどんな顔をするか、想像できる可愛さです。







残念なことを仕出かしました。デジカメを買い換えましょう。そして再度写真を撮りに行きましょう。実は、これはお目当てのイルミネーションへ行く途中で見つけたものです。お目当てのものは、これよりももう少し規模がでかい。ところが、カメラが勝手にフラッシュを点灯し、光の芸術の、その光をかき消してしまいます。残念。今のカメラでもなにか設定があるのかもしれませんが、今回撮れた写真はお見せできないものでした。・・・、しかし先立つものが・・・。

先日、撮り損ねたイルミネーションの取り直しに行ったのですが、もうクリスマスも終わった後だったので、光を入れた降りませんでした。もしかしてと思ったのは甘い考えでした。ですから、撮りそこなった写真の中で、まだましなのをアップしておきます。



こんなもんじゃありません。一面光を滲ませ、闇が際立って光が美しいのです。昼間もその場所を見ましたが、夜は幻想であるとはっきりわからされる現実でした。畑のなかに雪だるま、農家の壁にすだれのようにイルミネーション球。

ですが、イルミネーションの好きな人は大勢いるようで、それもやはり個人でやっているのを、例えば郡家に一軒、羽間にあるのは息子さんの方で、丸亀夢タウンの方が親御さんとか、志度にもあって、高速でみにいきました、と噂をききました。いやいや、そんなに遠くへ行かなくとも、大日峠を越えたところに凄ッごいのが二軒ありますよ、とは言いませんでした。秘密です。きれいなものは秘密にしておくのです。



さて、そろそろこの項目も締めたいと思います。と言いますのも、あまりにもおこがましい言い方だったと思っているからです。私事ですが、昨年、暮れの27日をもって現役をしりぞきました。自分自身は引退し、会社の方もこれから解散手続きをしようと思っています。

仕事を辞めると全く知らない生活が始まり、全く知らない時間の過ごし方が待っています。今はお正月でもあり、今まで通りの過ごし方で生活できました。ですが、その後未知の時間が待っているとおもってました。その時何をするのかと自分で考えていたことが、この大人の趣味の文章でした。しかしそれを他の人に勧めるとは、我ながらおこがましい。

暮れにでしたか、定年までの五年をかけて、自分の手で自分の船を造り、定年後それで夫婦二人で運河800キロを航行する生活を選択した人の事をしようかいしたドキュメントがありました。それを見ながら、私たちは解放された、何からも自由だ、自分の時間の主人公は自分だ、自分のために自分の時間を使うという元船職人の言葉に、一面納得し、そうだ、そうありたい、それが人生の終わりの過ごし方だと思って・・・、一面納得してないところがあることにも気付きました。日本人って、悲しいほど仕事好きなんですよ。生涯現役って言葉が妙に肌に馴染み、すとーんと腑に落ちるんです。八十でまだ現役、七五でこんな職人仕事をやっています。それを当たり前的事と見てしまい、そうありたいとも思ってしまう。土に馴染み、物を作り、それで一生を終われたら、こんな幸せなことはない。外国の人とのこの違いはどうなんでしょう。わたしは、ああ、やっぱり役立たずになったと思っています。

しかし、これもどうしてでしょう、眠いのです。仕事をしていたときと同じ睡眠時間か、もっと寝ているのにウトウトと眠ってしまう。炬燵でもうたた寝をだらしなくしてしまう。なんか、理解できない変化です。

手作り大人の趣味の勧めの結語を中途半端にしましたが、今私の前には未知の時間がはじまっております。仕事がない、することがない、予定もないという時間です。ですから、私はそれに備えて大人の趣味を持とうなんて、おこがましくも文章にしました。思えば、諸先輩が既に経験済みの事を訳知り顔にくださしく言うのは、釈迦に説法でありました。

今、私はすることを考えています。しなければならないこと、したいこと、それをない交ぜに混ぜてすることに決め、毎日の日課にします。これはもう何年か前に、人生の整理を支援する手帳を見つけ、書き込んであります。毎朝体重と血圧を測り、記入する、朝食は私が作る、パンは前の日に焼いた自家製、食事の準備が整えば毎朝の犬の散歩、その後妻と朝食を取り、等々、時間は働いていたときと変わらないようにして過ごす。仕事のときだけ、その内容が仕事ではなく、調べ物、勉強、読書、ちょっとした野菜畑の草取り等に変っている、そうしようと何年か前の私が書いています。それを今の私が覚悟しました。すること、否応なくすることにしようと考えました。

さあ、そろそろ本を読むときがきました。今まで読んで読み損ねた本。源氏物語や古事記ではありません。ドナルド・キーンさんを道案内に、徒然草、方丈記などを読む時が来たようです。

## 趣味を始めるために百円ショップに行きましょう

---

今、色々なショッピングモールでダイソーの看板を見かけます。郊外に出来た大型店舗ならどこにでもあるみたいで、ちょっと呆れ気味なかんじもします。100円ショップといえば、安かろう悪かろうの印象しかありませんでした。ところがわたしのクライアントのお母さんが、何か探すといったら先ず 百均 へ行くと笑ってました。何でもあるといいます。なるほど、と思い、覗いてみたりしましたが、やっぱり貧相な気がして気後れしましたので以来よほどの事がないと行かないことにしていました。

ところが、ついこの前できたショッピングモールへ行くと、えらく派手苦しい一角があるではありませんか。上からピンクの飾り物が下がり、一体ピンクに染まっています。あそこは・・・、と考えると、100円ショップだったはず、です。行くと果たして模様替えした100円ショップ。そこで、ついついじっくりと品物を見て回りました。化粧品からアクセサリ、小さな花の鉢植え、文房具、プラスチック容器、食器、工具、等々。ないのは食料品だけか、と思うとお菓子類から菓子パン、ドレッシングにインスタントラーメン。まさに保存の利くものなら食料品も売っています。中にはオールデイズのCD、マジックの種、パーティ用品、本当にないものはないといった状況です。そのなかから、私はアクリル絵の具と水彩筆、画用紙、彫刻刀などがあることも見つけました。木を削った丸い玉もあります。それを3個と円柱ブロック、スケッチブック、締めて五点、買ってかえりました。丸い玉は底をえぐって重りをいれ、穴をふさぐと、起き上がりこぼし、円柱は手作り車の車輪と、要するに孫の手作りおもちゃになりました。スケッチブックは、下手の練習用の画材です。実用品ではなく、趣味のための材料は100円ショップのあちらこちらに並んでいます。何も趣味などない方、100円ショップにゆきましよう。使わなくてもいいじゃありませんか。置いておいてもかまわない、覗いて手にしていじるには都合のいいショップです。

かつての私の仕事は主に手作業でした。それで、仕事をしながらラジオを聴いていました。まさかテレビは見られませんから。昔でいえば、ながら族と言う奴です。ラジオを聴きながら勉強する、そんなことで集中できるか、勉強なぞ頭に入らないだろうと親に言われました。えっ、いけないやり方なの？と反対に疑問に思いましたが、ラジオをつけて勉強するのがごく自然なやり方だと思ったので、以後も同様にやってきて習慣になってました。ながら勉強、ながら自転車乗り、今では若い人だけでなく、大人まで携帯を見ながら通勤したり音楽を聴き、ゲームをしたりしています。まあ、それもいいんですが、大人は違ったことをやりましょう。かねがね思っていました。BSでは放送大学があります。教育テレビでは高校の授業もありますし、チャロが活躍する英語のショートストーリーもあります。それは知ってたので、何かやろうと思ってました。そして漠然と考えていたとき、はっと思いついたのがラジオです。この一歩遅れた機械が雑音混じりで今でも流している英会話レッスン。私が中学生になり、英語を勉強し始めて、さらに勉強しようと思ったときの手段がラジオの英会話でした。しかしその時は続きませんでした。テキストを買わなかったからとか、ラジオを一人占めできなかつたとか、言い訳はありました。でも実際は、聞き取れなかつた、解らなかつた、面白くなく他にしたいことがあって忘れた、うっかり聞き逃し続けた、というのが本当でした。今は違います。ラジオは性能がよくなり、時間が来るとスイッチが入って忘れずチャアンと放送を聞かせてくれます。録音も出来ますから、聞き逃しても安心。それに再放送もあります。もちろんTVなら録画できますが、テレビは片手間というわけには行きません。まじめに座って見なければなりません。それは重たい。アナログでいいじゃありませんか。片手間です。My name is A

oi Haruka. I was born in Nara. I'm twelve years old. 朝六時、私は起きてラジオを聞きます。He is a genius. とラジオに合わせて喋っています。手を広げる前に先ず一歩。高尚でなくとも一つずつと思い、はじめました。子供達よ、父は今に英語がしゃべれるようになるぞお。

## 自転車はどうか

---

リタイヤした今、それでも毎日の生活は変えないようにと、むしろ朝は以前より早く起き、六時からのラジオの基礎英語を聞き、我が愛犬の散歩に行って規則正しい生活をこころがけて・・・、そうです、心がけてはいるのですが、どうしても心弱く負けてしまうことが多々あり、残念な思いをすることがあり、ああもったいない、と思わず声が出ます。決めたとおりの生活をするのがよいのではなく、自分の時間を無駄にしないように過ごしたいとだけ、思います。

朝のBSプレミアムを楽しみに見ます。日本縦断、こころ旅 です。地味な番組ですが、味わいのある中身で毎日楽しみにするようになりました。また、テーマソングも耳で懸命に覚え、クラリネットを指で探りながら吹けるようになりました。違う番組ですが、小さな旅 のテーマもそうやっておぼえましたが、なかなかむつかしい。火野正平氏が坂道を上がる時のように、息があがってしまいます。テレビの番だけはすまいと思ってますが、つい見てしまいます。そして、自転車ってどうだろうと思いはじめました。毎日朝晩、歩くことを心がけて最近腰が痛くなるほど歩き回っていますが、ちょっと飽きました。同じ景色がつづいてますから、こっちはどうだろうと工夫をしてみますが、はやくも少し見飽きた感があります。歩いているとそこの景色を見ながら、かつての景色を見てしまいます。新しくなった建物を見ながら、また古い建物が潰された跡に昔の景色を見てしまいます。見飽きたというのがありますが、昔が見えるやりきれなさに疲れた気持ちになります。いっそ歩く速度ではなく、もっと見過ごせる速さの自転車はどうだろう、行動範囲もひろがるし、見えるもの変わるかもと、そんな期待が膨らんでいます。



## 手仕事の始め

---

それを手仕事と言っていいかどうか分かりませんが、コツコツとオーディオスピーカーを作っています。いわば、電子工作みたいなものです。それも絶対にお金をかけないでやって、どこまでできるかを追及しております。材料は手持ちのラジオとそれに付いていたスピーカー、または、こっそり手に入れたラジカセ、それから昔々買っておいたオーディオセット、それから、息子からもらったレシーバーとスピーカーのセット。いまのところはこれだけでした。実はもうすべて使い切ったのです。しかし、実は自分でも驚いていることがあります。一番初めに手を付けたラジカセが、いまでもいい音で鳴っていることです。このラジオはテープもCDもついておりませんでした。ですから、何年前のものなんでしょう。それが解らない。たぶん、親類のところから流れてきて、倉庫のどこかに置きっぱなしになっていたのだと思います。それでもFMは聞くことができますから、四十年も前ということではないと思っています。しかし、三十年以上経ってはいると思うのですが。

そのラジオの電源を入れると、普通に音が出ました。それを当たり前とおもい、普通に、朝、電源をいれて地元の放送局の番組を聞いておりました。そのラジオを聞きながら、はんだごてを握って作り始めたのが真空管アンプキットでした。しかし、配線図が読めるわけでもなく、ただ実態配線図とネットの体験談のみが頼りでした。あとは勘。なんと頼りないことか。テスターも持たず、持っていても使い方を知らず、何を計測すればいいのかさえも解りません。ですから当然の結果として、聞こえませんでした。つまり、真空管には火が入らず、スピーカーからプスツとも音は出ませんでした。がりつとでも音が出れば少しは気が済んだのですが、それさえ無理でした。これをキット発売元に返して、買ったほどの値段をかければ直してくれます。しかし、そうすると、完成品の真空管アンプが買えちゃいます。たとえばトライオードの中堅クラスのアンプが買えちゃいます。それじゃあもういいわと工場の二階の隅の、見ないで済むところに置きました。どうして捨てられないのでしょうか。癪の種でしかないのにと思いつつ、おいてあります。

で、手持ち無沙汰になって手をつけたのが、目の前で無事鳴っているトランジスタラジオでありました。せっかく鳴っているのに、壊すことないだろうと言われましたが、それもそうだと思いつくことはありませんでした。まずアンテナをいじります。ロッドアンテナに銅線をはんだ付けし、捨てずにあったテレビの室内アンテナをつなぎました。これは、VHFアンテナがFMアンテナの代わりをすと思いこんでたからでした。やはり思惑通り、これは成功しました。明瞭に聞こえます。FM放送は雨が降ると電波がかき消され、聞こえにくくなります。アンテナが十分働くようになると逆にこの現象が余計に出てきて、雨の日はFM放送は聞こえません。そんなことも体験しました。

つぎに手を付けたのが、スピーカーの取り外しです。

## ステレオの話をしましょう

---

と言ってもスピーカの話です。このデジタルの時代でもおなじことと思いますが、音の良さしを決める一番大きな役割を果たすのは、CDプレーヤでもアンプでもなく、スピーカーなんです。もちろん高価で立派なメーカー製のスピーカは素晴らしい音がします。しかし昔の貧乏学生はスピーカーの自作を考えました。そのため本も読みました。オーディオ雑誌も、立ち読み、しました。いまでも MJ なんて雑誌があるんですね。無線と実験、という雑誌でした。中でも熱心に注目し、むさぼるように読んだのが、長岡鉄男氏のオーディオ評論とスピーカーの作成記事でした。氏によって、あの名器ダイアトーン16cmフルレンジスピーカーの存在も知り、いつかはと思い定めたことでした。もっとも、直ぐ後、我が空手家の友人が、当時の秋葉原からそのスピーカーシステムを買い込んできて、パイオニアのシステムで鳴らしましたので、つい身近なものになってしまい、なんとなく有難味はなくなってしまいました。しかし、非力なアンプでよくなりました。相性からでしょうか、バスレフのスピーカーからは低音が響きすぎ、うるさいほどでした。ですから、4畳半の下宿では音量を絞り、バスレフの中にタオルを詰め込まなくてはなりません。しかし、ブルーノートのジャズは素晴らしかった。録音自体が高域まで入っておらず、スピーカーの帯域にぴったりだったので、素直に聞けました。ボーカルなんか酔うほどによかったと思うのは、もう忘れた音の余韻だけが、今の耳に残っているからでしょうか。

いま、スタジオモニターといえば、世界の90パーセント以上がヤマハのスピーカーだそう。どんな音かは知りません。CDだっていろんな聞き方がされてます。ついこの前までは iPodで、いまはスマートフォンかもしれませんが、そのミキシングがすべてヤマハの音で行われているなんて、ちょっと痛快ですよ。昔はレコーディングマイクとテープレコーダーはほとんどソニーでしたし、シンセはローランド、とオーディオの世界に日本製はさりげなく使われ続けているみたいです。これはクールジャパンでも気が付いてないみたいですが。

スピーカーの話の戻りましょう。いまもってオーディオ熱が冷めないのも、以前ご紹介した湯布院で出会ったあのJBLパラゴンとタンノイのスピーカを見たからでした。あれからずばずとオーディオ熱が再発し、真空管アンプのキットまで買い込みました。しかしこれはさんざんで、高専まで行って、授業で半田付けの実習もした我が子に手ほどきをさせたのですが、キーボードのブラインドタッチは出来ても自分用のはんだごてを使って真空管キャップの足にリード線一本うまく付けられません。時代です。真空管の入った回路図が読めない。はんだごてを奪って自分でやりました。しかし真空管のヒートプレートが発光しない。赤く光るだけでいいと願ったんですが、音も出ないし真空管に火が入らない。それゆえご報告できませんでした。しかし、スピーカーは出来ます。箱を作ればいいのですから。でもその前に、何かわけのわからないスピーカーを手に入れたので、それで真似事をやってみようとたくらんでいます。たぶんカーステレオ用の2ウェイスピーカーだと思います。なんとむき出しとは言いませんが、なぜかサランラップのようなものに2個一緒に包まれて売られていました。スピーカーは湿気を嫌いますから、そういう扱いなんだろうと察しましたがどうでしょうか。2個で3000円。アンプも

ないのにスピーカー？とは思いますが、まずここからです。昔の知識を掘り起し、平面バッフル、後面開放型、密閉型、そして長岡鉄男氏おすすめのバックロードホンとやってみたいと思っています。氏は音特性が、とか計算式がとかにこだわるのではなく、まず作って聞いてみろと言ったと思います。ですから大きさ90\*180、厚み12ミリの合板で切り出し、それでボックスを作って見せてました。まずつくろうと思っています。

ということで終わるつもりだったのですが、それはど素人のオーディオ趣味の蘊蓄など、退屈なだけだと思ったからです。本当はスピーカーの原理から語りたいたいものだと思っていたのですが。じゃあ、スピーカーってどうやって鳴るのか、ご存じでしょうか。では、まず左手の親指を立てて、人差し指と中指を伸ばしてみてください。はい、フレミングの左手の法則ですね。もちろん右手の法則というのもありますが。とにかくスピーカーはコイルに流れる電流と磁界によって音を出します。やっと高校の物理が、実社会でかつようされている、事例に出会いましたね。このコイルが薄くて軽い振動板にくっ付いていて、スピーカーコーンを震わせて音の波を出します。また、スピーカーフレームに固定されたマグネットによって磁界は保たれており、ムービングコイルとそれが接着されている振動板、その振動板の動きを増幅させるコーンが一体となり、音が鳴り出します。このマグネットやコーンの材質とかでスピーカーの品質は決まるわけですが、いかにセミグライトマグネットを使い、コーンの材質を選ぼうと、マグネットの磁力は衰えていく一方です。コーンも使えば使うほど弱ってゆき、使わなくとも空気中の湿気でぼこぼこになります。つまりスピーカーは消耗品なんです。ですから、アンプとかは古いものが残っていて、真空管アンプなら古くなった真空管を取り換えればいけますが、スピーカーはそうはいきません。結局はエンクロージャーからスピーカー単体を外し、取り換えるほかありません。スピーカーの中古品がないのはそのせいです。名器もその場限りのもので、後世に残ることは難しいことです。残念！それゆえ、リサイクルショップなどでスピーカーは買わないほうが賢明です。きっとがっかりしますから。

わたしのオーディオ熱が再発したきっかけになった、・・・、この際名前を挙げても許されると思うのですが、湯布院、リビング・カフェ、あーばん にはJBLパラゴンがありました。わたしはこれを学生時代に京都の音楽喫茶で聞いたことがありました。このパラゴン、当時で200万ほどしたと思います。40数年流れました。タンノイの最高ランクが、当時60万ほどでしたか。パラゴンはその頃最高に高価なスピーカーでしたが、不世出の最高のスピーカーだと思います。

貧乏学生当時の憧れのスピーカーに熱中してしまいましたが、調べてみるとyahooオークションに案外多数出品されているみたいです。いやいや今でも手を出せない金額が示されておりました。そんな手を出せない私は安いスピーカーを安い真空管アンプにつなぎ、単体のCDドライブプレーヤーは遊びの品にしては高いので、以前使っていたDVDプレーヤーでCDを再生して悦に入ってます。大人買いのできない大人の苦肉の策です。

以前テレビで今の若い人に、レコードのドーナツ盤をかけさせてみてました。少しは何とかできる人がいるだろうとみてましたが、結局10人中10人が再生できませんでした。ドーナツ盤をかけてくださいという、そのドーナツ盤が何かさえわかりません。ちょっと危機感さえ感じ

ました。あの、レコードをかける一連の儀式がもう昔のことになっていました。

ところが実際、CDとLPレコードを聴き比べさせると、レコードのほうがいい音だといいます。CDよりもリアルだといいます。CDはデジタルなのでアナログの心地よさはありません。また40ヘルツ以下の低温と22000ヘルツ以上の音もカットされています。どうせ人間には聞こえないからということからです。そんなふうに人間の耳を見くびってはいけないと、かねがねおもっていたのですが、聞こえてなくとも耳は感じているのではないかと、昔思ったことをもう一度思い返しました。

また、オーディオは機械の作った人工のものだと軽んじられることもありますが、演奏は生でなくっちゃと言われても、コンサートなどに行っても、結局はマイクの拾った音をスピーカーで聞くわけですから、同じことかと思えます。また、ジャズ喫茶で生演奏を聴きましたが、ベースの音が聞こえません。オーディオがなければ今の音楽の、一般大衆への広がりはなかったと思います。人口の音でいいじゃありませんか。ひよっとしたら、それが今の音楽の音の芸術の有り様なのだと思います。また、与えられた音を原音に忠実に聞くのではなく、自分の好きな音で聴いてもいいじゃありませんか。原音原理主義、反対！！ジャズはいい音で聴きたい。

## ラジカセって、いじりがいのあるおもちゃです

---

手元に4台のラジカセがありました。壊れたラジカセが、という意味です。実際いま使っているラジカセは2台、別にあります。これにはカセットテープドライブは乗っていません。でも、ラジカセ というらしいです。カセットテープを探しても町の電気屋さんでは見かけなくなっていますのに。それでもネットショッピングにはテープもまだあるようです。機械がなくなり、それで使うテープも無くなるって、どうなんでしょう。時代の変化ってやつで、自分だけ取り残されているのでしょうか。そんなことに気づかされるとは思いもよりませんでした。iPodを子供には買ってやってるというのにです。

まあ、それはいいとして、使うこともなくなり、それでも捨ててなかったラジカセをちょっと見直しています。確かにテープは回リません。ですから、思い出のテープも捨てるしかないのかとは思いますが、あの、あまちゃん でステレオラジカセが鳴っていました。20年以上前のテープが、録音された音をちゃあんと記録しています。おどろきです。ですからカセットドライブの動かないラジカセを何とかしようと考えました。そんな気になったのが、あの あまちゃん の一場面からだというのは気恥ずかしい話ですが。それでも、なんとかかなると思います。昔のテープは何本も残っていますから、なんとかしなくちゃと思っております。

そこで、暇つぶしの材料はそろいました。古い、どいつもこいつもテープの回らないラジカセが4台。メーカーが違うのは困りものですが、一台一台開けると、なにか共通の部品もあると思います。そう思って実は一台、もうつぶしてしまいました。そんなつもりはなかったんですが、素人の浅はかさ、むやみにねじを外し、思わずぶらーんとプラスチックのふたが垂れ、途端、何かにつながっていた細い細い電線がぶちっと切れ、蓋が外れてねじが飛んでわからなくなってしまうました。懸命に探しましたが、解りません。ええい、なくても何とかなるわと切れた線を見ると、スピーカーにつながってありました。切れたのはスピーカに半田付けされた、その根元でした。赤と白のきれっぱしがラジオの側に残っています。コンセントを差し、電源を入れ、手で持って鳴らしてみます。無事でした。ですから、それはよかったです。カセットドライブの駆動部分は基盤の裏側にあります。ねじを4本はずし、のぞいてみるとプーリーに2本、駆動用ゴムリングがかかっています。そのプーリーを回し、歯車のついたテープ巻取り軸も回してみますが、プーリーは動きません。そこからです、問題は。あちこち動かし、CRCを吹き、押釦を押し、・・・、結局わかりませんでした。モーターは回ってるのでしょうか。電源トランスはいきてるようだけど・・・、と素人が悩み、ついに手の付けられなくなる領域に何時の間にか踏み込んでいました。あとはずるずると解らぬまま進むだけで、迷いに迷う闇の中でした。もう決断の時と、時限爆弾の電線を切る思いで線を切り、取り返しのつかないところに来てしまい、ついにはあちこち切り、投げ出すのはあと一步のところになってしばらく抛りだしてしまっていました。あとは資源ごみに出すだけ。外側はプラスチックごみ、基盤は資源ごみ、電線も資源ごみ、アンテナも金属でと、手順通りに作業を進め、それで終わりです。昔おもちゃを分解してどうにもならなくなったのと同じです。幾つになっても同じことを繰り返すのでしょうか。いや、まだ3台あります。一台つぶした経験がありますから、やってみましょう。明日、また手がけてみ

ようと意を決しています。

## 二台目のラジカセ改造記

---

二台目のラジカセは、なんとステレオになっておりました。なんて言うか逆に首を傾げられ、ステレオじゃないラジカセってと、聞かれそうですが、最初のラジカセはほんとにモノラルのカセットラジオで、30年も前のものでした。それでもちょっとした細工をすると、朗々と鳴ります。いま暇つぶしの作業をしているときのメインのオーディオ装置で、NHK FMを聞いております。ではどんな細工をしたのかというと、前を開け、スピーカーを外し、別途にスピーカーボックスを作ってそれにそのスピーカーを強固に、そうです、強固に取り付けた、それだけです。スピーカーボックスの板材はラワン15ミリ厚で、型式はバックロードホン。縦45cm、横30cm、ロードホンの開口部は5cm高×30cm。まあ何でもいい、締まりのないぼやけた音がするだろうと予想して、しかし、何か懐かしい思いで、スピーカーにしてはもったいないほどのエンクロージャーをくみ上げ、9.5cmの安物スピーカーを強固に取り付けました。スピーカーボックスは、重い、です。エポキシ樹脂系の接着剤で板を張りました。密封性は完全です。バックロードの第一段階のホーン部にもちゃんとしてフェルトを張り、吸音材としました。あとは取り付けたスピーカーの品質だけ。ダメとわかって作った暇つぶしですから、碌に鳴らなくていいんです。そう思って作ったのですから、と言いつつFMラジオを聞くと、思ったよりしっかりとした、厚みのある、低音も抑えられた音でした。

もちろん、これに気を良くした私は、FMアンテナを作ることにしました。と言ってもループアンテナを二本作っただけです。

長い間、更新できなくて申し訳ありませんでした。windows を 8 から8.1に更新しましたところ、ページタイトルは入力、編集できるのですが、本文欄にどうしても入ることが出来ず、困っておりました。そこで、仕方なくこのサイトに問い合わせたところ ブラウザを

google chrome に変更して試してくれとのメールがあり、本日やっとそうしてみました。結果は御覧の通りで何とかなりました。google chrome は使い慣れておらず、また考え考え操作しなければならないのかと億劫には思いますが、当サイトがwindows 8.1に早く対応してくれることを期待しております。そして、また少しずつ更新してまいりますので宜しくお願いいたします。

さて、久しぶりに一人話を続けましょう。ラジカセの話でした。さはさりながら、その前に私は子供のころ、実に不思議なラジオを知っておりました。鉱石ラジオというものです。私は鉱石ラジオとゲルマニウムラジオは一緒なものだと思っておりました。小学生の頃の事ですから、仕方ないと自分で自己納得して、その話は横に置いておきます。しかし、今もラジオ、テレビは原理は何も変わってないんです。何も見えないし聞こえない空気中を、電波なるものが飛び交い、それを原理的には昔から変わらぬ方法でとらえて、音声にしたり映像にしたりして見聞きしているわけですから。アナログだ、デジタルだって言いますが、私が二本の線をループにして天井に張ったアンテナでAM、FMラジオを聴くのも、鉱石ラジオのあの細い銅線、エナメル線を丸や四角の枠に巻き付け、そのアンテナで電波をとらえて、かすかな音を聞くのも、なんも変わっ

たことではありません。ましてや真空管が出現してなかったじだと、それがとても高価だった時には、この鉱石ラジオとそのあとのゲルマニウムラジオは一般的なものだったそうです。子供の時、このゲルマニウムラジオが珍しくて、また欲しくてたまりませんでした。鉱石ラジオなんて、子供の手でもすぐに組み立てられそうに思えたからです。そして自分だけのラジオが持たたいとも思いましたから。なにか、子供らしい好奇心と独占できるものがほしいということだったんでしょうか。実際にはもうその先の、真空管ラジオが家の中で鳴っていたのにです。イヤホーンで独り占めして聞くラジオ、今とは違いましたから、結局こんなものも子供の手には入りませんでした。

いつの間にか、胸が焼けるように切望していた鉱石ラジオも忘れてしまい、家の真空管ラジオがテレビになり、ラジオに再開したのは大学に行って一人暮らしを始めた時でした。親がさみしいだろうと、トランジスターラジオを持たせてくれました。そのラジオで聞いたのが、FM放送であり、ジャズでした。

確かにジャズをいい音で聴きたいとは思いますが、きれいに澄んだシンバルは聞き耳を立てて聞いてしまいます。ノイジーなコルトレーンのサクスの厚みのある音、マイルスのちょっとフラフラするペット、マッコイ タイナーの太い指のピアノとソフィスティケートされたエバンスの、これもピアノ、こういったものは高級なオーディオセットで聞くに値するものでしたし、しかし当時の私には望むべくもないものでした。

それも忘れてこの年になりました。すると、JBLの4322という番号を持つ畳一畳ほどのスピーカーとマランツのアンプから聞こえる実に素直な音は、ずっと耳に入ってくるのですが、それより、何時のものかわからない古いラジカセのスピーカーを取りだし、楽しんで作ったスピーカーボックスの中で鳴っている音のほうが馴染んで聞こえます。懐かしいとか感慨深いとかなんてものではなく、プアーでチープな、昔こんなことに夢中になった、その時の思いがもう一度帰ってくるからという、そんなことでしょうか。



ラジオは、後に出てくるテレビほどではなくとも、それはそれで高価なものでしたから、わたしが子供の頃は贅沢品でした。それ故、今のテレビのように、一人一台なんてありえませんでした。それで、チャンネル権というものがラジオにあるとしたら、子供にそれはありませんでした。といっても、ラジオの放送局なんてたかが知れてます。NHKと民間放送が一局聞ければ感度のいいほうのラジオでした。

当時のラジオは当然真空管でした。スイッチをひねると電源が入り、スーパーラジオであったら選局の感度に合わせて、猫の目のようなインジケーターが動き、チューニングが合えば開いてた隙間が閉じて真円になって光りました。それがとんでもなく新しいものに見え、局が合おうが会うまいが、チューニングダイヤルを右に左に回しまくり、インジケーターの動きを見続けてました。

スピーカーもごく控えめな8センチとかの大きさで、音なぞ期待できるものであるはずもなく、しかし、それしか知らないのはつよいもんです、ポピュラーも歌謡曲もジャズもクラシックも、みんなそういったもんだと思い込みましたから、いまだにそれが音の基準になっているかもしれません。そういえば、JBLパラゴンも、今となってはちょっと薄い音がしますから。でもいい音です。あの帯域の狭いブルーノートジャズを、真空管アンプと聴くと最高です。

テレビが家に来るまで、ラジオは楽しみの中心でした。そこから歌も聞き覚ええましたし、ドラマも聞きました。しかしその選択は親がしますから、君の名は、浪曲、相撲放送、落語に漫才、別れの一本杉、ベルが鳴るベルが鳴る・・・最終列車、アァー憧れえのハワイ航路、粋な黒堀見越しのまあつに、でありました。親のいないとき、聞くともなく聞いたのが、海外から引き揚げてきた人たちの、\*\*さんが\*\*さんをさがしております、と言う放送でした。どういう内容だったか、今は見当もつきませんが、そういった放送も聞いた覚えがあります。しかし、記憶は途切れています。夏の夜、カンカンカネポー、の音楽とともに、蚊帳の中で聞いたラジオ放送を覚えているくらいで、それを境に途切れているのです。いや、イチョウは手品師、老いたピエロという歌詞は何時だったんでしょう。この歌も覚えています。しかしラジオはいつか押し入れに仕舞われ、テレビが座敷にデンと居座りました。ラジオはもう主役には戻らないことになりました。それを引っ張り出したのが、高校生の私でした。受験勉強に、机の前において小さな音で聞きながら問題を解いたり、赤線を引きまくったりしてありました。それを、ながら勉強と言われました。そんなことで頭に入るかと父に叱責されました。しかし、ながら勉強は続けてたのですが、ある時癩癩を起した父がそのラジオを庭に叩き付けてしまいました。この箱が壊れ、私にもう外からの音をもたらししてくれるものはなくなりました。ですから、オールナイトニッポンは、大学へ行ってから聞いたので

した。深夜番組を知り、冗長な夜更かしが始まったのが大学に入ってからとは、順番が違うだろうということになりますが、おらは死んだ一、おいでみなさん きーとくれ ぼーくはかなしいじゅけんせい、は私が受験生を脱してから聞いたことになります。あの美濃部都知事の口調でなにかしゃべるのに一人で大笑いしたのも、大学で下宿先でした。そのころは、テレビなんて贅沢なものを持っている学生なんていませんでしたから、親が私に持たせたソニーのトランジスタラジオはプチブルの象徴でした。あのラジオ、どうしたのか覚えていません。しかし、ラジオが主役の、二度目の出会いはこの時だったと思います。まさに、解放区を手に入れたのでした。流れ込んでくる音楽は、見たこともなく、聞いたこともない物でした。それを何の抵抗もなく聞き、受け入れたのが我々で、グループサウンズの次の、フォークの世代が我々だということになるのでしょうか。エルビスではなく、いきなりビートルズ、ローリングストーンズが我々でした。そのなごりか、以前書いた通り、ラジカセの改造をやり、自作のバックロードホンのスピーカーボックスにチャチなスピーカーを埋め込んで毎日ラジカセでそれを鳴らしてFM放送を聞いています。

それを手仕事と言っていいかどうか分かりませんが、コツコツとオーディオスピーカーを作っています。いわば、電子工作みたいなものです。それも絶対にお金をかけないでやって、どこまでできるかを追及しております。材料は手持ちのラジオとそれに付いていたスピーカー、または、こっそり手に入れたラジカセ、それから昔々買っておいたオーディオセット、それから、息子からもらったレシーバーとスピーカーのセット。いまのところはこれだけでした。実はもうすべて使い切ったのです。しかし、実は自分でも驚いていることがあります。一番初めに手を付けたラジカセが、いまでもいい音で鳴っていることです。このラジオはテープもCDもついておりませんでした。ですから、何年前のものなんでしょう。それが解らない。たぶん、親類のところから流れてきて、倉庫のどこかに置きっぱなしになっていたのだと思います。それでもFMは聞くことができますから、四十年も前ということではないと思っています。しかし、三十年以上経ってはいると思うのですが。

そのラジオの電源を入れると、普通に音が出ました。それを当たり前とおもい、普通に、朝、電源をいれて地元の放送局の番組を聞いておりました。そのラジオを聞きながら、はんだごてを握って作り始めたのが真空管アンプキットでした。しかし、配線図が読めるわけでもなく、ただ実態配線図とネットの体験談のみが頼りでした。あとは勘。なんと頼りないことか。テスターも持たず、持っていても使い方を知らず、何を計測すればいいのかさえも解りません。ですから当然の結果として、聞こえませんでした。つまり、真空管には火が入らず、スピーカーからプスツとも音は出ませんでした。がりつとでも音が出れば少しは気が済んだのですが、それさえ無理でした。これをキット発売元に返して、買ったほどの値段をかければ直してくれます。しかし、そうすると、完成品の真空管アンプが買えちゃいます。たとえばトライオードの中堅クラスのアンプが買えちゃいます。それじゃあもういいわと工場の二階の隅の、見ないで済むところに置きました。どうして捨てられないのでしょうか。癪の種でしかないのにと思いつつ、おいてあります。

で、手持ち無沙汰になって手をつけたのが、目の前で無事鳴っているトランジスタラジオでありました。せっかく鳴っているのに、壊すことないだろうと言われましたが、それもそうだと思いつくことはありませんでした。まずアンテナをいじります。ロッドアンテナに銅線をはんだ付けし、捨てずにあったテレビの室内アンテナをつなぎました。これは、VHFアンテナがFMアンテナの代わりにすると思ひこんでたからでした。やはり思惑通り、これは成功しました。明瞭に聞こえます。FM放送は雨が降ると電波がかき消され、聞こえにくくなります。アンテナが十分働くようになると逆にこの現象が余計に出てきて、雨の日はFM放送は聞こえません。そんなことも体験しました。

つぎに手を付けたのが、スピーカーの取り外しです。

## スピーカーいじり 2

---

副題を変えましたが、続きです。トランジスタラジオなんて簡単だろうと、分解にかかったのですが、はたして、ねじ六本で止まっておりました。筐体の四隅と、なんと、電池ボックスの中二本です。これは想像がつかなかった。どうにかしてそれを外し、箱を開けると、裏ぶた担ってるほうが外れるのかと思いきや、前がのきました。その表側の蓋にお目当てのスピーカーが取り付けられておりました。スピーカーの本体に取り付け穴があるというわけではなく、スピーカーのふちを押さえ金で抑えつけておきます。これを四本外し、スピーカーをはがしにかかったのですが、接着剤で貼り付けてありました。それも、そろそろとドライバーの先を突っ込んでおがすように外しました。しかし、これも予想に反して、スピーカーコードは髪の毛かと思うほどの細さです。しかし、これで十分大きな音量を出せるんです。

とにかく、スピーカーという材料は手に入りました。これに木の箱を作ります。スピーカーボックスとかエンクロージャーなんて洒落た言い方をしますが、とにかく箱です。それも、できるだけ厚い板の箱がいいのです。

箱の種類は、大まかに言って六つほどあります。平面型、密閉型、後面開放型、バスレフ型、バックロードホーン型、フロントロードホーン型。平面型は、板が厚ければ出来るだけ大きいほどいいです。しかし、それも実用的ではない。小さなスピーカー一個に畳一枚の板なんて、置き場に困ります。しかし、これが一番素直な音がします。

密閉型は、平面型の大きな板を切って、後方の空間を包み込んでしまおうというものです。包み込んで、後方に鳴っている音を漏らさないようにして、なかったことにしようという形というのが、この密閉型の理論です。ですから、箱が小さければ、吸音材を一杯に詰め、音を緩衝作用でかき消そうと考えます。さらに、板厚が薄ければ、箱鳴りがします。それも特定の周波数のみに共鳴します。また、ぶすっとも音が漏れないようにしなければなりません。漏れた音が打ち消しあうからです。しかし、そうすると、箱の中の空気がスピーカーコーンを押さえつけ、自由に動けなくします。つまり、音量と帯域が制限されることになります。ですからこそ、十分な体積が必要だということになります。

後面開放型は、音の干渉には目につぶって、密閉型の欠点を解消し、スピーカーの本来の性能を発揮させようという形です。この形は、後方に密閉されて気圧を生じる空間がありませんので、コーンは自由に動けます。自由に動ければ音量も帯域も、スピーカーの最大限の能力を出すことができます。しかし、前方の音波と、後方から回り込んできた音波が緩衝しあい、打ち消してしまいます。ましてや、壁の前に箱を置き、蓋されてない後面を接近させて置くと、その壁でまた音波が反射して前に廻ってしまいます。ですから、箱の前後は出来るだけ長くし、壁には接近させずに置くほうがいいということになります。

## スピーカーいじり 3

---

各パーツを止めつけるのは木ネジです。綺麗な止めかたをするのならダボという手がありますが、これは位置を決めるのが難しい。また、ダボを止めこむ穴の深さもきちんと決めてなければならない。しかし、見た目なんかどうだっていいんです、確実に止まりさえすれば。ならば木ネジが一番。ですが、この時下穴は重要で、ここでボール盤が活躍します。ボール盤を使えばきちんと直角に下穴があいて、板が直角に取り付けられます。こうして手持ちの機械を使いながら、木工を始めたのでした。

その第一番目の成果が、板に開けた75mm径の穴に仮止めした安物スピーカーから出た音でした。むき出しのスピーカーから出る音はごまめの歯ぎしりほどで、低音が、とか、高音が、とかなんて次元じゃありません。それをたった一枚の板に取り付けるだけで高音も中音も低音も、音全部が豊かに聞こえてきます。ちょっとした感動でした。しかし、その音源は元のラジオでした。それでもそのラジオで鳴っていた音より良かったのです。

ここでちょっと脇道にそれましょう。以前究極のスピーカーとしてJBLのパラゴンを紹介したことがありました。このパラゴンはなんと1957年に開発され、以来25年間作られ続けられたのでした。そして、これの最後の製作職人は、フレッド・加藤という日系人でありました。パラゴンは工場の生産ラインに乗らない、日本の宮大工が技術の粋を尽くして作るような特注品であったようです。そして、1978年には、パラゴン製作職人は加藤氏一人になり、氏が1983年にリタイヤすると共に、パラゴンの製作は終わりました。まさに大型楽器工房による特注楽器ともいべきスピーカーでありました。

このパラゴンの特徴のひとつが、スピーカーがすべてホーンであったことです。3ウェイスピーカーであったことも当時は特異なことでありましたが、ペーパーコーン型のスピーカーと違って、3ウェイオールホーン形式はまったく希少な存在であったわけです。

。身近なホーン型スピーカーといえ、ハンドマイクがあります。丈夫な金型のお椀に磁石とコイルの取り付けられた振動板が閉じ込められています。それゆえ、その中の空気圧で振動板が暴れたり空振したりせず、効率よく音が再現できます。しかし、それだけでは十分な音量が得られず、ドライバーと呼ばれる音源の前にラッパが取り付けられます。これらが一体となって、ホーン型スピーカーといわれるものになります。パラゴンの他にアルテックのもの、タンノイなどもホーン型スピーカーをつかっています。

このホーン、そう特別ではなくて、メガホンも同じことですし、管楽器の先端があさがおのように広がっているのも同じ原理です。ラッパと思えば間違いありません。

私が最終的に作ってみたのがこのホーン型スピーカーのまがい物でした。フロントロードホーンという形です。12cm径のスピーカーをバックロードホーンにしてみたり、密閉型としてみたりしたあと、バスレフ型に改造しておわりにし、最後にのこった7cmのスピーカーをフロントロードホーンの箱に入れてみました。小さなスピーカーユニットの場合、フロントロードホーンの箱に入れるのならば、バスレフ型も併用したほうが良いということなので、共鳴管も取り付けました。といっても特別なものではなく、下水道配管の接手で、厚みもある48mmの筒をなんとか

取り付けたと言うだけのことで、計算も理論もあったものじゃありません。それでも、あのホーン臭さのする、中音が洞窟の中で響くような音になっておりました。それが、人の声が不自然に聞こえる原因になって気持ち悪いのです。それでこのスピーカーはボツにしました。

こうして、スピーカーのほとんどの形式をすべてつくって見たのですが、手持ちのスピーカーが無くなって手持無沙汰になり、いろいろ思案してリサイクル店へ行きました。すると、ダイアトーンの3ウェイスピーカーがペアで4万5千円ほど、タンノイが11万、オンキヨーが2万、と高価なものも並んでおりました、その横に、ジャンク品として、やはりペアで1千円と消費税で、良さそうなスピーカーが並んでいます。2千円も出せば、ブックシェルフで2ウェイのスピーカーがペアで買えます。作るのなんてあほくさいと思ってしまいました。アキュフェーズのアンプが17万8千円ででておりました。さらにAUDIO SPACE(これは中国のメーカーですが)の真空管アンプも同じような値段で出ています。このどちらかと、反対側の棚に置かれたタンノイのスピーカー10万円で聞くクラシックはどんな音がするだろうと思ってしまいました。CDプレイヤーはマランツの高級機がいいでしょう。アキュフェーズは混じりっけのない、本当に純粋な音がします。さすが日本製です。

とは思うのですが、私のやっていることは、お金を掛けないオーディオ趣味です。もうジャンク品のスピーカーも振り捨てて店を出ました。これから帰って、何にもない工場のコンクリートの二階の部屋で、Jazz を聞きましょう。アンプは息子の、二〇年前のレシーバー、CDプレイヤーはなんと中国製のDVDプレイヤー。CDプレイヤー専用ものではありません、DVDを見るだけのプレイヤーです。本当は、プレステ2でもいいんですが、これだと操作するのにテレビが必要になります。プレステ2は専用のプレイヤー以上にふくらみのある、いい音がします。しかし、いまは取りあえずDVDのほうをつないであります。かけるCDは古いJazz。この帯域の狭い録音のCDなら、十分です。

## スピーカーいじり 4

---

いまの人たちの音楽を聞く方法はたぶんもうウオークマンではありませんまい。そんなことをいうと、一体何年前の話だと言われそうです。耳にイヤホーンをさして歩いている学生さんの手にしているものは、スマートホン。これには、他から音楽を取り込んで持ってくる必要はありません。たとえば、CDからテープにダビングして、ウオークマンで聞くなんて操作はいらないのです。スマートホンで音楽をダウンロードし、これをセーブしておけばいつでも聞けます。音楽はいつでも持って歩いて聴けるものになりました。音楽を聞くことの、これが最先端。私たちの最先端はレコードプレーヤーにLP盤を置き、回転が安定したところでアンプに火を入れ、ボリュームを〇にしておいてレコードに針を落とすという儀式を執り行って、やっと音楽が聞けたのでした。その音楽はステレオというものになり、ステージに向かって聞いているような臨場感にあふれた音になったのでした。その最先端に憧れ、オーディオ雑誌を読み漁り、知識だけは頭にあふれるほど溜めこんでいきました。しかし金がない。お金なんか持っておりませんでしたから、雑誌の写真のスピーカーとかアンプに見入るだけで終わりました。いまなら、大人買い出来るでしょう。アキュフェーズのアンプだって買えます。JBLの4435だって買えるでしょう。でもそれでいいのかと考えてしまいます。世間一般では、オーディオなんてもはや衰退した昔の趣味です。あれほどあふれていたアンプとスピーカーが、いまは電気屋の片隅に申し訳程度に飾られているだけです。それもコンポーネントばかりが並ぶだけ。昔は、と昔の話はもういいでしょう。いまの若い人は音楽自体聞かなくなってきたとか。それでも昔はと言いたい。あらゆるものにこだわりました。カートリッジはオーディオテクニカのMMタイプがいい、ターンテーブルはパイオニア、アンプはラックス。こんな妄想に夢遊んでいたのが若い時分の私でした。いまは買えるからと言って、買ってしまうと、そのころの自分に悪いような気がします。気が咎めます。ですからお金を掛けないオーディオ趣味に走っています。

## スピーカーいじり 5

---

それにしても、当時からそうでしたが、オーディオマニアはスピーカーケーブルにまでこだわって一本何万ものケーブルを使い、バナナプラグは金メッキを選びます。ケーブルなど、3mの長さに端子がついて13万5千円という値段のものがあります。バナナプラグは4本で7千円余り。私は室内配線用に使われていた電線を再利用して、それも切ってはんだ付けして使って鳴らします。真空管アンプキットを組んでみた経験からいうと、アンプからスピーカーへのケーブルをいくら7Nにしたからといって、アンプ内は普通のコードを使っています。7Nというのは99%の数字の下、小数点から下に9が五個続くことをいいます。実際に表記すると、99.999998%ということで、9が七個続き、そのあとは8などの違う数字になることです。つまり純度がどれだけ高いかということを示します。このCuの純度が最高の7Nのオーディオコードを使うのは、それだけ電気抵抗が小さいので、ノイズが少なくなるだろうと期待してのことです。ところが、そこに7Nのコードを使ったからといって、肝心のアンプ内は普通の電気コードをつかっているのですから、ノイズの減少は気休め程度でしかありません。そのために13万5千円を使うのがオーディオマニアです。

しかし、確かに高級品はそれなりの満足感を与えてくれます。そしていい音です。それは否定しません。しかしアンプは電気信号の増幅器、レコードプレーヤーはでこぼこの波を拾って電気信号にかえる変換装置、スピーカーは永久磁石とコイルを巻いた電磁石で振動を起こし、空気を震わせて音に変える装置。これらはみな、物理学の法則で動く機械です。これに何故のめりこむのでしょうか。自分がのめりこんでいて、首をひねります。若いころに詰め込んだ知識を再現しながら、機械や道具を使ってスピーカー作りの電気工作にいそしむ。何の役にも立ちません。しかし、若かった時の、あの理想のオーディオ装置を切望していた自分に戻れるのがいいのかもしれない。



## スピーカーいじり 6

---

書き落としたことがありました。

ラジカセのスピーカーは、じつは一個100円にも満たない原価だと思います。格安スピーカーで検索すると、10個で1500円なんてスピーカーさえ存在しますから。なんてことでしょう。スピーカーという工業製品が一個、ペットボトルにも満たない値段しかしないなんてとおもいます。だからといって、ラジカセのスピーカーをばかにしてはいけません。普通のオーディオスピーカーとは違った、これはこれで特別な仕様のスピーカーなんです。つまり、スピーカーのラジカセへの搭載の仕方を欲張れないことが第一にあります。ですから、オーディオ用のように繊細には作れません。しかも音量もさまざまで聴かれるだろうから、それはそれなりの音がしないとラジカセ自体が売れなくなります。そして、なにより丈夫でなくちゃなりません。そこで、ラジカセ用スピーカーは再生帯域を欲張らず、無理の無い再生を行なうことに特化しています。実は昔、ラジオ用のスピーカー特性と言う規格が旧JISに制定されていて、人の聴感特性と日本語の聴き取り易さを考慮してその特性を選定したとも言われています。そのせいか、随分と聴きやすい、言い換えると「聴き疲れ」しない音になっています。この延長で、あの名スピーカーと言われたダイアトーンp610とかパイオニア PAX-A20などが産まれました。

p610とバスレフ型エンクロージャーについては思い出があります。大学の友人にオーディオ雑誌からの受け売りから、このスピーカーの素晴らしいことを吹聴しました。すると夏休み、静岡に帰り、次いで秋葉原にゆき、彼はp610とスピーカーボックスを買いこんできたのでした。いかに空手部とはいえ、くみ上げられたスピーカーボックス2個を一つずつ片手に下げ、秋葉原駅まで持ってゆくのは大変だったといっていました。そこから先は送ってもらいましたからよかったのですが、その荷物が来るため、彼は早々に下宿に帰ってきました。やってきたスピーカーボックスとスピーカーを彼は知らないまま、慣れぬ手つきで組み上げ、初めて鳴らしました。ですから、わたしはp610を聴いているのです。もっとも、忘れてしまってますが。このときからなんとなくスピーカーいじりを意識するようになりました。あのp610はずいぶんと低音がなっていました。

そんなことで、ラジカセのスピーカーはそれなりの性能を意識して作られているので、ちょっと手を加えてやるだけで、一応の音はするのです。いや、するはずだと知ってていじりだしたのです。案の定、目論み通りの音がしました。今の激安スピーカーはどうか知りません。もうラジカセなど、国内メーカーは作らなくなっていますし、ですから激安店で見かけるラジカセは皆中国製です。そういえば、安いカーステレオのアンプは、中華アンプといわれるものを使っているようです。

こうしてスピーカーをちゃんとした箱に入れると、ちゃんとした音がします。音域は狭くとも低音は十分豊かで、少々ボリュームをあげてもへこたれず、後面開放型とかバスレフ型にすると低音も高音も歯切れよく鳴って、聴かせてくれます。アンプ部はラジカセそのままを使うといいです。高低音を豊かにするため、アンプ側でもラウド機能を使って電氣的に持ち上げてあることがおいからです。こうやって作ったスピーカーはドラムのシンバル、ハイハット、ブラッシン

グさえ聞こえます。ベースはたっぷりとしていて、ピアノはリリカルで、こんなに音が入っていたかなあと思わせるほどです。たかがラジカセの小さな増幅装置で、こんなにも豊かな音楽を表現できるものかと感心します。

そういえば、きちんとした装置で、最近AM,FMラジオをおききになったことがあるでしょうか。最近のラジオ放送はクオリティが高いです。FM放送なんか、CDに近い音質で放送されています。これも音源がデジタルになったからだと思います。アナログ回帰とかハイレゾとか言いますが、一般放送の音の良さはデジタルのおかげです。一度ちゃんとしたオーディオで聴いてみてください。

そして、このラジカセのスピーカーで聴くのに一番ふさわしい音楽があります。狭い音域で、少ない構成で演奏され、低音も充実していてボーカルまである。1970年までのJazzがいいです。安売りになってるCDで十分です。コルトレーンが古臭い音で極上に聞こえます。

書き落としたことがありました。ラジカセのスピーカーは、じつは一個100円にも満たない原価だと思います。格安スピーカーで検索すると、10個で1500円なんてスピーカーさえ存在しますから。なんてことでしょう。スピーカーという工業製品が一個、ペットボトルにも満たない値段しかしないなんてとおもいます。だからといって、ラジカセのスピーカーをばかにしてはいけません。普通のオーディオスピーカーとは違った、これはこれで特別な仕様のスピーカーなんです。つまり、スピーカーのラジカセへの搭載の仕方を欲張れないことが第一にあります。ですから、オーディオ用のように繊細には作れません。しかも音量もさまざまで聴かれるだろうから、それはそれなりの音がしないとラジカセ自体が売れなくなります。そして、なにより丈夫でなくちゃなりません。そこで、ラジカセ用スピーカーは再生帯域を欲張らず、無理の無い再生を行なうことに特化しています。実は昔、ラジオ用のスピーカー特性と言う規格が旧JISに制定されていて、人の聴感特性と日本語の聴き取り易さを考慮してその特性を選定したとも言われています。そのせいか、随分と聴きやすい、言い換えると「聴き疲れ」しない音になっています。この延長で、あの名スピーカーと言われたダイアトーンp610とかパイオニア PAX-A20などが産まれました。

p610とバスレフ型エンクロージャーについては思い出があります。大学の友人にオーディオ雑誌からの受け売りから、このスピーカーの素晴らしいことを吹聴しました。すると夏休み、静岡に帰り、次いで秋葉原にゆき、彼はp610とスピーカーボックスを買いこんできたのでした。いかに空手部とはいえ、くみ上げられたスピーカーボックス2個を一つずつ片手に下げ、秋葉原駅まで持ってゆくのは大変だったといっていました。そこから先は送ってもらいましたからよかったです。その荷物が来るため、彼は早々に下宿に帰ってきました。やってきたスピーカーボックスとスピーカーを彼は知らないまま、慣れぬ手つきで組み上げ、初めて鳴らしました。ですから、わたしはp610を聴いているのです。もっとも、忘れてしまってますが。このときからなんとなくスピーカーいじりを意識するようになりました。あのp610はずいぶんと低音がなっていました。

そんなことで、ラジカセのスピーカーはそれなりの性能を意識して作られているので、ちょっと手を加えてやるだけで、一応の音はするのです。いや、するはずだと知ってていじりだしたのでした。案の定、目論み通りの音がしました。今の激安スピーカーはどうか知りません。もうラジカセなど、国内メーカーは作らなくなっていますし、ですから激安店で見かけるラジカセは皆中国製です。そういえば、安いカーステレオのアン

プは、中華アンプといわれるものを使っているようです。こうしてスピーカーをちゃんとした箱に入れると、ちゃんとした音がします。音域は狭くとも低音は十分豊かで、少々ボリュームをあげてもへこたれず、後面開放型とかバスレフ型にすると低音も高音も歯切れよく鳴って、聴かせてくれます。アンプ部はラジカセそのままを使うといいです。高低音を豊かにするため、アンプ側でもラウド機能を使って電氣的に持ち上げてあることがおいからです。こうやって作ったスピーカーはドラムのシンバル、ハイハット、ブラッシングさえ聞こえます。ベースはたっぷりとしていて、ピアノはリリカルで、こんなに音が入っていたかなあと思わせるほどです。たかがラジカセの小さな増幅装置で、こんなにも豊かな音楽を表現できるものかと感心します。

そういえば、きちんとした装置で、最近AM,FMラジオをおききになったことがあるでしょうか。最近のラジオ放送はクオリティが高いです。FM放送なんか、CDに近い音質で放送されています。これも音源がデジタルになったからだと思われます。アナログ回帰とかハイレゾとか言いますが、一般放送の音の良さはデジタルのおかげです。一度ちゃんとしたオーディオで聴いてみてください。そして、このラジカセのスピーカーで聴くのに一番ふさわしい音楽があります。狭い音域で、少ない構成で演奏され、低音も充実していてボーカルまである。1970年までのJazzがいいです。安売りになってるCDで十分です。コルトレーンが古臭い音で極上に聞こえます。

音楽之友社のwebページからネット通販で、scanspeakの5cm口径のスピーカーキットを購入しました。幸運にも、そのサイトでは新春お年玉キャンペーンを行っており、その目玉商品の一つがこのスピーカーキットでした。とはいうものの、金額は通常、このサイトで売っている金額と変わりません。しかし、もし販売中止になったらと思い、購入を即座に決めました。このスピーカーキットは2012年だったかの雑誌の付録でしたから、バックナンバーのようなもので、以前にも、他のもので販売中止になっていて、悔しい思いをしましたので、即決したのでした。

このスピーカーの実力はユーチューブで知っていましたので、楽しみにしておりました。貧乏オーディオマニアの、ささやかなぜいたくです。しかし、来ません。お金は振り込んだのに、来ないんです。1月に申し込めば、くるのは二月中旬だろうと知ってはいたのですが、待ち遠しいものです。毎日メールチェックを欠かしませんでした。そして、二月と思っていたのが、一昨日きました。小さな包みで軽い箱が、夜、届きました。ですから、翌日の朝、開けてみました。すると、思いもしなかった冊子が付いておりました。長岡鉄雄氏のスピーカー製作集が付いていたのです。まさに、スピーカー自作派のバイブルです。サイトには書いてあったのかもしれませんが、気が付きませんでした。それだけに、余計にうれしかったです。昔雑誌で見た製作実例が集めてあります。本当に、お年玉でした。スピーカーボックスは、想像通りのチープさでしたから、作っては見てますが、音は期待していません。しかし、ユニット自身は実力があります。どんな容積のボックスにすればいいかも、そのための板も用意しております。まずキットを作ってみて、それから自分でちゃんとしたボックスを作るつもりです。それにしても、オントモ社の発送したというエールには、おくりましたという文章の後に、楽しみにお待ちくださいと書いてありました。なんて楽しく仕事している会社なんだろうと感じました。楽しみにお待ちください、そう言えるものを売っているなんて、すごいと思います。

## ちょっとお金を掛けてみました 2

---

送られてきたキットのサイズが、思った以上に小さかったことはかきました。ですから、このエングロージャーに期待はしませんでした。絶対期待できないと思って当然の大きさですから、もし諸氏がこれを手にしたら、その通りとご同意いただけることと思います。板の厚みも9mmもあるでしょうか。たしかに板そのものは硬度があります。板が柔らかければ、音はぼやけます。硬ければ高音はきつくなり、低音は小太鼓のようにパンパンなって音色がわからなくなります。ようするに安物のラジカセ程度の音しかしないと思っていました。

作り方も、木ねじとかダボを打ち込み、板を接着するなどの作業が当然あるものと思っていたのですが、製作法もよく工夫されていて、クラフトテープが張られたままの部材に木工ボンドを塗り、それを四角の箱の形に止めておくだけでまず第一段階は終わり、次はフロントパネルのガイドの穴に小さな木ねじを差して、スピーカーを止めます。後板も同様で、ケーブルのコネクターを止めます。あとはそれらをボンドで張るだけ。なんともあっけない工作でした。

二時間ほど待って、このスピーカーを鳴らしてみました。前面を見ると、本当に新書版ほどしかありません。板は薄いし、箱鳴りしそうだな、と思ってました。アンプからのケーブルをつなぎ、CDをかけてみます。おお！なんと、今までで一番の音がするではないか、と驚きました。能率も80dbと、低いはずなのに、非力なアンプで、堂々となります。2WAYのスピーカーより定常感もあり、音の広がりもあります。最高音域は18000Hzですから、高域も大したことはないはずなのに、きれいに出来ます。これがペアで二千七百元ですから、余計びっくりです。低音はというと、これは期待していませんでした。しかし、これも大したもんです。ベースもバスドラも響き渡るとはいいませんが、思った以上です。もう、これを改造しようとかは、もう思いませんでした。これはこれで鳴らしていきます。もし次をなにか作ろうと思うなら、別なスピーカーユニットを買って、それでやることにします。

もし、なにかスピーカークラフトを楽しもうと思われたら、まず、これを作ってごらんになるといいです。手作りのスピーカーなどでは大したものは作れないと言い切る人もおりますが、そんなことはありません。こんなに完成度の高いスピーカーがこうしてつくれます。そしてこの水準のスピーカーを作ってしまうと、次々と作りたくなって、この趣味のとりこになってしまいますよ。

スキャンスピークのスピーカーでいい音を聞いてしまうと、何やら虫が起こってうずうずします。実はその前から、一つの目論見がありました。実際には、とても手の届かないものですから、ならば模造品を作ってみようじゃないかと思っていたのです。それはJBLパラゴンです。そんなのできるはずがないとおもっていますが、ネットを捜してみると案外そう思うのは私一人ではなかったようで、たくさんの方が色々なやり方で試みしています。まず設計図を捜し、見つかった設計図が古びて鮮明でなければ、これをデジタル処理して復元までしてしまうお方が見つかりました。ユーチューブには、パラゴンのコピー製作をアップされている人もおりました。パラゴンをミニチュアの置物になおして、スマホのスタンドにしたものもあります。実際には、そこにスマホを置くと拡声器のようになって、大きな音で音楽が聴けます。しかしこれには、電氣的な増幅はされておられません。実はここにパラゴンの巧みな構造があります。パラゴンは3WAYのスピーカーなのですが、三個のスピーカのそれぞれに、巧みにフロントロードホーンが設置されております。一番目立つツイーターは鋳物のラッパをつけております。スクーカーはウーファのホーンの音道に巧みに設置され、そのホーンを共有して音を響かせております。その低音をコントロールするホーンを巧みに形作ろうとすると、あの工芸品の域まで達したスピーカーエンクロージャーの形になってしまいます。まるで自分が作ったかのような言い方になってしまいましたが、あの形は音と品位に妥協がありません。ですから、スマホをミニパラゴンに置くと、その音道をつたって高中低音すべてがバランスよくボリュームを増して鳴ります。このことが、パラゴンは今も最高のスピーカーといわれるゆえんです。これをコピーなんかできるはずがありません。ましてや貧乏オーディオマニアのやることですから、お金もかけません。三個のスピーカーもウーファとツイーターの二個でどうかと考えております。要するに、ウーファとツイーターの2WAYスピーカーユニットをつかってホーン型のエンクロージャをパラゴン風につくってみようというわけです。しかし、ここで、それを作る手掛かりがなにもないというのが問題です。格安ウーファであっても、スピーカー口径が8cmならば、エンクロージャは8~10Lは必要です。ツイーターはこれを囲うか、固定すれば大体大丈夫です。この条件からパラゴンの形を考えてみると、ウーファには大きな容積の箱を考え、それにホーンをつけて、その途中にツイーターを固定すればいいことになります。スピーカーユニットの候補はあります。オントモから買えます。やってみるしかありません。まさにトライアンドエラーしかありません。これぞ、スピーカーづくりを趣味にするものの本望です。やってみようとおもっています。





貧乏オーディオの話をししましょう。現実にはドラマより壊れているのですから。

しかし、不思議とは思いませんか。ラジオもテレビも、何にもないのに、箱の中に何か入っているように、スイッチを入れると音が流れ、映像もでてきます。アナログテレビは昔のことになってしまいました。いまやハイビジョンを超えて4k、8kと言い出しています。じゃあ、どこをどう飛んで来れば4k、8kになるんでしょう。むかし、FM放送で、ただいまからステレオ放送を行いますというアナウンスの後、途端に音が広がり、右から男の歌声が、左から女の歌声が流れ、おおステレオとはこういうものかと驚いたことを覚えています。もっとも、当時はステレオ感を出すために、わざと左右のチャンネルをはっきり際立たせて放送していたそうです。それにしても、何もない空中を電波なるものが飛んで、音と映像を運んでくるのですから、そもそもを考えると不思議な気がします。

さて、オーディオの話ですから、こちらはまだちょっとだけ解りやすい。以前、本屋さんで、復刻レコードを月刊で販売しているのを見かけました。マイルス・デビスのSO WHAT、コルトレーンのMY FAVORITE THING、ソニーロリンズ、、ビルエバンスなどをジャケットごと復刻しておりました。名盤中の名盤、定番中の定番、ほしい！でも、レコードプレイヤーがない！でも、そんな動きがあったからでしょうか、HARD OFFを覗くと、なんとレコードプレイヤーが置いてあるではありませんか。3～4台ありました。そのなかで一番高いものが9980円。しかし、カートリッジがない。加えて、たぶんベルト駆動ですから、ベルトが伸びている。そうであるなら、交換部品もないでしょう。そのことについて、お店のコメントは何もありません。回りましたの一言と、カートリッジはありませんのみ。トーンアームはユニバーサル型で、昔見慣れた型です。これは高級機でした。先のシェルの下に4色のリード線が見えます。それにつながるカートリッジは、昔、音の宝石と言っておりました。今も型式は変わったことはないようで、MM型、MC型が基本であるようです。ほかにVM型というのがありますが、これはオーディオテクニカが独自に開発したMM型です。それにしても、貧乏オーディオマニアには、MC型は手が届きません。今のアンプはCDを基準に作られていますから、MC型カートリッジの0,003mVの電圧は昇圧トランスを介するか、フォノアンプを使うかしなければならないそうです。また高いものにつく。ところがMM型なら、いまでもそれがいらぬ。おまけに安い。針の交換も自分でできる。MC型はメーカーにお願いしなければなりません。レコードプレイヤーはMM型カートリッジ付きで、

ネット通販で、一万円でおつりが来て、送料無料。ハードオフへ行くと、LPが一枚千円未満でうっています。もちろん、CDも安いですが、昔聞きたかったレコードが今手に入ります。買おうかなと思っています。

## 貧乏オーディオの話 2

---

昔のレコードはSPなんて大きなものがあって、そんな大きな盤に片面たった一曲、両面二曲しか入っておりませんでした。ところがEP盤なるものが出てきて、これがドーナツ盤なんて呼ばれました。そして、究極のレコード盤LPが登場します。これに大体三分から三分半の曲が片面六〜七曲入っていて、アルバムなんて言い方もされました。レコードの回転数もそれぞれあり、LPは七十八回転、EPは四十五回転、SPは三十三回転と決められていました。LPなぞ外周からトーンアームがトレースし始めると、これなら二曲ぐらい入っているんじゃないかと期待させるぐらい長く回っていますが、内周に近づくとつれ、曲の速度は同じなのに、針の進み方の早くなること。片面で一曲があつという間に終わります。レコード盤自体精度が悪くて、保存の仕方によっては波打って回ります。それにつれてトーンアームも波うちます。レコードの中心の穴はさすがにきちんと中央に開いておりますから、針が横に動くのはあまり見たことがありませんでした。なかにはちょっと動いてるのもありましたけど。それにしても、今思えば味のある音でした。大迫力とか、原音に忠実とか、のちの評価の基準なんか吹っ飛ばす音でしたから。なんというか、壁越しに聞く音というか、オーケストラをカステラの箱に入れて持ち歩いているような音というか、とにかく、フルトベングラーが鍋の底で沸き立つような音でした。

ちょっと物理的な話をすると、LPレコードは40Hzから25000Hzぐらいまでの帯域を録音できるのだとか。それに比べ、CDは4Hzから20000Hzまでの帯域で、特に高音はカットしてあるそうです。大体人間の耳はこの帯域しか聞こえないのだから、これでいいだろうということです。ですから、自然とレコードのほうが音がいいという議論がでてきます。どうでしょうか。ところが今度はスピーカーのほうのことが出てくるわけです。

たとえば名機タンノイ、これはクラシックを聞いたらこのスピーカーと言われる定番のスピーカーです。今のものは知りません。昔のオーディオ雑誌では名機タンノイも物理特性は日本のものに劣る、なのになぜあのように豊かな音がするのだろうと書かれていました。確か、200Hzから16000Hzぐらいまでしかでてないと書かれていたように思います。そのころの名機ダイアトーンP610もそんな程度でした。だから、ハイレゾもいいですけど、物理特性ばかり追求すると、日本のスピーカーは、どうしてああもきんきんした音がするんだと海外で言われてしまうのです。いま日本でスピーカーユニットを作っている会社はごくわずかです。その中にFOSTEXという会社がありますが、ここはあのiPhoneのスピーカーを作っているところです。この会社のスピーカーは優秀です。6.5cm口径でも200Hzから22000Hzまで鳴ります。しかし、よほど慣らし運転をしないときんきん耳障りな、まるで耳鳴りがしているようなとまで酷評される音だそうです。しかし、そこは皮肉なもので、同じ6.5cmでもこの会社がFOSTERというブランドで作っている安価なスピーカーは評判がいい。安売りショ

ップで一個一二〇〇円そこそこで買えちゃいます。そのスピーカーの音の帯域が狭いわけではないのですが、評判がいい。ただし、大きなエンクロージャーに入れないといけないのです。ブックシェルフでは特性が生かせない。それが欠点かと思います。では、私の好きなスピーカーユニットはなにかというと、scanspeakの口径5cm、ペアで一七〇〇〇円のもので、YouTubeでも音は聞けます。広域までずっと伸びた、分解能のいい、ギターが指で擦れる音まで再生する、女性ボーカルが美しく、ピアノがスローに鳴るスピーカーです。フルレンジの傑作だと思います。これをバスレフの箱に入れて鳴らすと、5cmとは思えない低音とボーカルが張り出してくる中音、切れのいい高音、そしてバランスはフルレンジですからもちろんいい。貧乏オーディオマニアなのに、大いにおごりました。あとはBUTLERの真空管アンプでも買いましたよ。安いですよ。真空管アンプとも思えない値段です。だから出力は片チャンネル2W、これでもボーカルなら十分。マイルスのビッチェズブリューは無理ですけどね。

。

スピーカーユニットの話を始めると、止まらなくなります。このユニットはどんなふうに鳴るのだろう、どのタイプのエンクロージャーに入れると最適な鳴り方をするのだろうと、これはもう想像するというのではなく、妄想の域まで達してしまいます。ネット通販の格安スピーカーユニット販売に秋月電子というのがあります。そこにはついこの前まで、5cm口径で一個五〇〇円というのがありました。二個以上だとさらに割引があるという、お買い得で格安なスピーカーでした。まあいつでも買えるだろうと高をくくっていたところ、先日リストから消えておりました。ざんねん！このスピーカーかどうかは知りませんが、YouTubeで、秋月電子の格安スピーカーを使って作ってみましたという内容の動画がありました。それをきくと、トランジスターラジオから外したスピーカーを鳴らしてみた時と同じ音がしておりました。つまり、帯域の狭い、音量も上がらない、しかし、ラジオで鳴っているときよりはずっと聞きやすい音でした。

JBLのフロアー型の4344がほしいと思っています。中古で二本40万弱、これをまともに鳴らすには、リスニングルームから考えねばなりません。まず、床はコンクリートで固めてかつ無反響に作る必要があります。壁や天井も、せめて音漏れしないようにぐらいはしておかなければなりません。じゃあ、アンプはというと、たぶん何でもいいんです。出力ワット数なぞほどほどで。なんなら、中華アンプでもまともに鳴ります。そこがアルテックと並んで、JBLなどのアメリカ製スピーカーのいいところです。ヨーロッパのスピーカーの気難しさとは、ちょっと違います。私自身、中華アンプで鳴るアルテックも、貧弱な真空管アンプで鳴るJBLも聞いています。音の入り口と出口がちゃんとしていればいい音が聞けるもんです。

その音の入り口といえは、今はCDプレイヤーなわけですが、こいつの善し悪しが解らない。デジタル音源では、そのピックアップの違いがさほど顕著にでてこないと最近まで思っていました。ラジカセについているCDプレイヤーで聞こうと、コンポのCDプレイヤーで聞こうと変わらないじゃないかと思ってました。そこがデジタルの良さだと思えます。違っているとすれば、せいぜいSN比ぐらいかと。ノイズの入らない、静かさと思ってもらえばいいです。しかし、マランツの一番安いCDプレイヤーで聞く機会がありました。弦が鳴るんです。人の声は違いが解りにくいのですが、アーコスティックギターとかベースを聞くと、その明瞭度が解ります。分解能とでもいうのでしょうか。ピアノも違いが解る楽器です。ですから、ビルエバンスを聞いてみてください。マッコイ・タイナーは太い指がキーをたたくのが解ります。オスカーピーターソンは華麗に鳴ります。マルウオールドロンはピアノが泣いています。キースジャレットは現代音楽風

に聞こえます。チックコリアが、と言い出せばきりがありませんが、ジャズピアノが好きでした。そういえば、ジャズの始まりのころ、左右の指一本ずつでピアノを弾くピアニストがいました。名前が出てこないのですが、ただ素朴なメロディラインで、それが二本指で弾かれているとは思わなかった。たぶん楽譜も読めないし、ペダルの使い方もそう知っていたわけではなかったと思います。コード進行なんて、てんで頭になかったろうと思われま。まるっきりビルエバンスとは対極の人でした。もちろん、黒人です。話がそれました。

スピーカーユニットの話も横道でした。レコードをルーペなんかで見たことがありますか。レコードも初期にはいろいろな材料が模索され、シュラック盤とかバイナル盤とか言われるものが出たようですが、詳しいことはわかりません。一九五〇年代になって、塩化ビニールが使われるようになり、やっと瓦盤という悪名を返上することができました。それまでは、ちょっと落とすと簡単に割れたものです。と、知ったように言いますが、実は知っているのです。LP盤を落として、父に叱られました。見事に割れます。

そのレコード盤、音はカッティングマシンで音を原盤に刻み、マスター盤を作って、プレスして作られます。ですから、まず第一枚目が一番いい音だと思いがちですが、そうではなく、機械がなじんできた十枚目ぐらいが一番音だそうです。千枚もプレスするとマスター自体を交換しなければならないらしいです。

そうした作業を経たのち、レコードはできるわけですが、肝心の溝は、拡大するとうねっているわけではなく、溝の左右の壁に、実に細かい波打った痕跡が刻まれています。これが音の痕跡です。これをレコード針がトレースし、例えばマグネットとコイルを震わせて、かすかな電流を起こします。音の姿がここに刻まれているわけです。空中を飛ぶ電波とかの姿の見えないものじゃなく、姿を現しています。しかし、これも不思議。

しかし、レコードは原音のままカットされていると思ってはいないでしょうか。そうすると、低音がレコードの溝を超えて、大きく幅を超えてうねってしまうので、低音は弱めてあるのです。ですから、これを補うためにのアンプにフォノイコライザーが入っています。オーディオの、より原音に近づけたなんて、CDとかデジタルでも、みんな大嘘です。機械を通せば、加工された音しか出てきません。いいじゃありませんか。悪口言う人には言わせておけば。コンサートでもマイクを通せば同じこと。加工された音だから、みんなで音楽を楽しめる。

音って、物の振動によって回りの空気に波が起こり、その波によって伝わってくるわけです。まるっきり中学生の理科のようなことですが、その波を形に残し、その形から音を再生しています。それがレコードのアナログな痕跡からか、オンオフの穴の連なりかは記録の仕方と再生の仕組みによって決まります。音の記録の仕方と再生方法がオーディオの入り口で、アンプはその信号を増幅し、スピーカーを駆動して波を再現します。その仕組みにこだわりがあって、レコードやCDとなり、真空管アンプとトランジスタアンプに分かれますが、結局出口はスピーカーです。これは変わっていない。磁石とコイルで磁力による動きを作り、これでスピーカーコーンを波立たせ、音を作ります。自動車のワイパーと一緒に。エンジンはターボだのディーゼルだのと変化し、今やハイブリッドとなってモーターがタイヤを動かします。そのうち地球の磁力に反発するようにして車体を宙に浮かすりニアモーターカーが走るかもしれませんが、雨が降ると相変わらずワイパーでフロントガラスをぬぐいます。これは進化がない。画期的なワイパーはでてこない。スピーカーも同じだと思っています。

scanspeakのスピーカーユニットがいいと思っているのですが、このスピーカーのメーカーはデンマークです。昔からヨーロッパのスピーカーは音に味があると言われてきました。JBLだってアルテックだって、高能率で骨太な音がするというのが定評です。なにかお国柄が出るんだそうです。つまり、メーカーはある程度物理特性を追求し、そこから先はアレンジャーがいて、音のチューニングをするのです。そのとき、物理特性も犠牲にすることがあるそうで、それによって、音質は決められるそうですから、日本のスピーカーはどうなのでしょう。アンプやレコードプレイヤーは高い評価を受けておりました。世界に冠たるオーディオ大国でした。しかしスピーカーは二流扱いでした。パナソニックのげんこつスピーカーとか三菱の六半スピーカーは一部認められましたが、トランジスタラジオほどにもスピーカー単体は評価されませんでした。物理特性は大変優れておりましたのに。そして今も、わたしはデンマークのスピーカーが気に入っております。低音はスカスカだけど全体の音の艶やかさとリリカルな鳴り方がいいと思っています。

オーディオはこりに凝れば、病孔孟に達します。貧乏オーディオは分をわきまえています。ですから、ほどを知って、縮めて手を伸ばし、届いた範囲で満足しています。あとは自分の知恵を使い、手を動かして、音をさぐります。

しかし、満足はいかないと思います。これでも理想は持っているのですから。ところがと、考えてしまいました。澄み渡った高音と、リリカルな中音がと言いながら、もう自分にはモスキート音が聞こえません。年取ると、低音難聴が始まるとも言います。ハイレゾなんか、もう縁がなくなっているのかもしれない。ハイハットの響きがきれいに聞こえないのは自分の耳のせいかもしれないのです。

しかし、それはそれ。開き直って、手の届く範囲で理想の音を作り出そうと思っています。いいじゃありませんか。モスキート音なんか聞こえなくとも、きれいなジャズはいくらでもあります。



城めぐりは、退職後の楽しみと思っておりましたのに、忘れてしまっていました。忘れたまままで、野球帽をかぶり、薄いペラペラのジャンパーを着て綿パンをはき、スーパーで買った安物のスニーカを履いて、安物の肩掛け鞆を斜め掛けにし、何か知らないもの、見たことのないものを見かけると物珍しそうに立ち止まってきょろきょろ見てしまう様は、自分でも空き巣狙いの下見そのままです。これでサングラスを掛け、マスクをして、銀行や深夜のコンビニに入っていったら、即警察に110番されてしまいそうと思います。私は人相が険悪ですから。

さらに今、山と言わず林と言わず、木々は秋色に染まり、紅葉して足元に黄色赤色に染まった葉を敷き詰め、枝は空に突き刺さるように尖っています。それを見ると、写真を撮ろうと思うのですが、翌朝出かける　えている木々を見ると自分のうっかりに厭されるのですが翌日またおなじこと。こんな些細なことを、こうも忘れるのであれば、人生の大事も簡単に忘れてしまうと自戒しておりますが、また明日も忘れそう。今日も、デジカメを充電しわすれているのですから。

そういえば、自衛隊の横を東西に走る片側2車線の道の両側に黄色の鮮やかさを木全体にまとった銀杏が並木になって並んでいます。それもずうっと先まで、それも道の終わる先まで続いている様を、私は毎年見てきました。そしてそのたびに、ああ写真を撮ろうと思ってきました。仕事で通っている間、毎年そう思って忘れてきました。また来年があるからと、つい気楽に思ったからでした。それから仕事も辞め、その道を通らなくなって、この銀杏並木の事自体を忘れてしまって、今日そのことを思い出しました。そうやって私は人生のなにかを忘れてきたようです。思い出すことにしましょう。もう時間もないことですから。

## 山の姿は

---

同じ場所に住んでいると、周りは少しずつ変化しているはずなのに、何も変わってないように思い込んでいます。ところが、例えば自分は家を建てたりして景色を一変させたりしています。土地を削り、コンクリートで枠をはめ、木や瓦で箱を作って家を建て、子供を育て、少しの長い時間をその物の中ですごして、まるで自分が世界の中心のように振舞い、一生を終わります。物は残ってまた壊れ、潰されて景色が変わります。世の主役は生きている人、残ったものは生きている人の物。世の物はすべていま生きている人の物です。過去の人も先の人も、何も出きはしないし、どうすることもできない。

先に景正神社を捜して、少し道に迷いながら行ったことはかきました。先日、そこをもう一度訪ねてみました。細い道を歩いてゆくと、土地の人が剪定ばさみをもって立っておりました。その人に訊ねると、あそこの土手が土塁だったようで、2町四方と言うと、200m×200mほどだから相当広かったようだと言ってくれます。そして、その先の木の茂った辺りが出水で、仲村城の水の手だったようだといひ、今は鯉が泳いでると笑ってました。私は、そこが一応神社になっているので二礼二拍手一礼の参拝をし、その横に集められた石碑を見てました。その一群は後世の人が辺りから今の場所に集めてきたものと聞きました。柔らかい石なのか、もう表面は荒れてザラザラだし、形も崩れてしまってます。四角だったり丸かったり、石は傾いて不規則に置かれておりました。平安末期から鎌倉時代の物だとか。千年です。丸く刻まれた石は、更に石の土台の上に安置され、それから千年がたっていることになります。私はその丸い石のザラザラに風化した肌を撫でてみました。千年前に懸命にまあるく石を刻んだ人がいるのだと解った気がしました。法隆寺や春日大社のみならず、この、打ち捨てられた石のうえにも、千年の時は流れておりました。世の片隅にだって、時は同じように流れているのです。山の姿は変わってないのでしょうか。

## 徘徊すると

寒い朝の季節になったというのに、八時を過ぎると、この押し迫った時期にお構いなく、一人で大掃除をしている妻をほったらかして歩きに出かけます。暇ですから。本当は暇なこともないのでしょうが、それは妻の事情で、家の事は妻に頼りきって、と言うより任せっきりにして出歩きます。私は我儘ですから。それは自覚しています。ですから余計にたちが悪い。それでも後ろめたさを振り切ってあるきにでかけます。そして歩いている間、じっと自分の歩く姿勢に気を配ります。背中が丸い、猫背になってる、頭が前に出て前のめりだ、足が屈んで伸びてない、と思いが当たることは多々あります。ですから、先ず肩を回し、胸を張ります。そして、顎を引いて頭を宙に浮かすように、つまり頭のとっぺんを糸で吊るしたようにと心がけます。お腹も突き出すようにします。あとは、もう10cm、いや15cm歩幅を広げ、手は後ろへ後ろへと振って歩きます。すると、膝が伸び、腰が回って颯爽と歩けます。すると、後ろめたさなんか吹っ飛んで、いや、忘れたふりが出来て、ちょっときよろきよろしたくなります。

回りを見渡すと、善通寺の町はJRの駅前から延びる道があって、その通りには善通寺市役所、郵便局本局、社会保険事務所、四国学院、総合会館、それからかつては簡易裁判所と法務局があったのですが、いまは検事局のみがのこっています。この通りを昔は片原町と呼んでました。昔は名の通り、この道の南は原っぱだけだったと、古地図にあります。この道の先は善通寺の南大門に通じており、善通寺市のメインストリートでありました。それより北に中通がありますが、この通りは昔は今のよう権道319号線から西にまっすぐ延びていたわけではありません。片原町の駅近くから斜めに道があって、その先は現在の通りのままになっておりました。それを第11師団が善通寺に来たのでわざわざ切り開き、今の三本の平行な道に直しました。その一番西の道が本郷通りです。乃木大将が金蔵寺の寄宿先から馬で通うので、そのため東京の本郷通りにちなんで名前を変更しました。さらに寺の善通寺の門を赤門とも改称しました。なんとも涙ぐましい話です。

それはそうとして、善通寺にはお宮さんがたくさんあります。鎌倉神社と景正神社を訊ねて以来、そう気が付きました。ところが香川県は神社の数が少ない県に入っているようです。数としては905社と言うことです。それは金毘羅があるからとのこと。和歌山の熊野神社、島根の出雲大社、三重はもちろん伊勢神宮と、有名な神社がある所は数が少ないとありました。それでも、どうでしょう、善通寺には神社がたくさんあるように思えます。畑の中に木の茂っているところがあれば、大方神社が鎮座しています。そしてその多くが、たとえば昔の豪族の城跡であったり、大和朝廷の征伐軍と地元の豪族の会見場所だったところであったりの由来があります。そのような由来がなくとも、不意になにか恐れかきこまる思いに襲われると、その場所を祓いきよめて囲い、恐れ敬って立ち入らないようにしたのが、神社となったようです。若い時は神社なんか興味も抱かなかったのですが、年を取ってみると、誰もいない神社の境内に入り、祈り方もわからずただ二礼二拍手一礼と形ばかり整えて礼拝すると、なにか馴染んだ自然な祈り方に思えます。そう思うと、仏教って何だろうとは思いますが、それはそれ、聖徳太子以来仏教もこの国の国教であったわけで、ましてやこの四国は八八カ所参りの霊場でありますから、これも

心の静謐を得るため、参り巡ってみて感じてみたいとは思っていました。

先日、そんなことから弥谷寺に参ってみました。善通寺ではこの弥谷寺からはじめて、出釈迦寺、曼荼羅寺、甲山寺、善通寺、金蔵寺、道隆寺と巡ってゆくのを七カ寺参りといっております。きちんとめぐると、弥谷寺から道隆寺までで33kmぐらいあるようです。足弱な私がそこまで歩けるはずもなく、下から弥谷寺をぐるっとめぐって元に帰り、下の弥谷温泉にたどり着きましたが、もう入る気力もなくしてそのまま帰りました。温泉の下の道の駅が開いていて、モーニングサービスのメニューが食べられたので一休みしたのですが、そこで飲んだコーヒーにほっとしました。

娘に、神社には出雲派（出雲族）と大和派（族）があると教えられました。大和族は伊勢族（派）とも言うそうです。ですから、大和族なのに、出雲派にお参りすると、相性が悪くて何か支障が起こるそうです。私がまさにそうで、大学時代を懐かしみ、松江から出雲へ行こうと計画すると、なにかしら差しさわりが出来て行けなくなります。差しさわりでなくとも、天候不順で行けなかったり、旅行途中で、明日は松江となった時も呼び返されました。そんなんでえと、娘は方言丸出しで御宣託になりましたが、島根ではなく、境港市とかの鳥取では大丈夫なんです。水木しげる氏の妖怪ロードは快適に行ってこれました。それが松江では体調が悪くなり、行くことは行けても楽しむどころではありませんでした。もう鬼門です。それが金比羅さんも大国主命がご祭神なので、これに気軽にお参りしてしまうと災いばかりでした。大和派と出雲派について、自分がどちらか、判別するのは困難ですが、これから初詣の行事がありますので、ご注意ください。ほとんどは伊勢派なんです。

そして、神社の中にはもっと深いものもあります。いまどこにでもある、八幡神社がそれです。荒神神社もそうですが、鎌倉幕府と結びついた八幡神社は、弓矢八幡大菩薩の尊号のとおりに、謎だらけです。八幡様は、ついこの前の大戦でも武神として旗振られました。

実はこのように、戦前の神道は金光教、大本教、天理教と、闇深いものを抱えてはいます。それでも、しんとした境内に響く柏手の音は、びんと鳴ってすがすがしいものです。

## 失敗の後の後悔先に立たず

---

大学の時、凝りに凝って熱中したのがステレオでした。今でいうオーディオです。このことは書き連ねましたが、もとはといえば鉱石ラジオでありました。このことも既に記しましたが、いまでも不思議でなりません。鉱石ラジオの事を思い出すたびに、子供時代に抱え込んだあの不思議さを思い出します。電池もつながず、エナメル線を不恰好に巻いたアンテナと、何やらわからぬ電子部品が一個、それにイヤホンで音が、まさに音が聞こえてくるのです。そのもとになるのが、線も繋がっていない空中を飛ぶ電波なるものだと聞いても、子供には理解しがたい現象でした。そのあとテレビやFM、アマチュア無線の出現でいつか慣れっこになり、あの驚きは感じなくなりましたが、鉱石ラジオは思い出すたび、あの不思議さを思い出します。いま、ラジカセのFM電波の感度を上げるため、天井に二本、自作のループアンテナを張ってありますが、これも目に見えぬ電波を何とかとらえようとする素人の試みです。わたしはこれを張りながら、鉱石ラジオの時の不思議さを思い出しました。FM電波の波長は1, 8 mぐらいだそうです。で、1, 8 \* 4 mのアンテナを張り、聞き耳を建てます。変わったようなかわらぬような・・・、しかし確かにNHKだけでなく、香川と岡山の民間FM局がたくさん拾えるようになった...ように感じます。いまでも 大人の電子部品遊び をこうして続けています。

以前買った真空管アンプキットは、結局元のメーカーに訊くと、キットを手を付けた状態のまま送れば、悪いところを診断したうえで補正し、完成させてくれるとのことでした。ただし、元のキットの価格並みの費用が掛かり、送料は別とのこと。もちろんですが、断念しました。今は、シャーシーの上に真空管二本光らぬまま立って、マントルピースの上に鎮座しております。そののちに購入した安物真空管アンプは、とにかく音が小さくて、しかもプリ部のみ真空管回路で、メイン部はトランジスタのハイブリッドであることにあとから気づき、作業場の二階で時々聞いて、あとは打ち捨てられています。安物買いの銭失いを地で行ってます。

そんなことで、若い時と変わらぬ プアー で チープ な失敗をしながら、朝々自作スピーカーボックスに入れたラジオのスピーカーでAMとFMを聞いていますが、実はこの音質は30年以上前なのにいいんです。ラジオ放送の感度もよく、音も落ち着いています。その時期作られたラジカセは、部品がすべて日本製だからです。出力ICはもちろん、コンデンサーも抵抗も日本製で、プリント基板の組み立ても日本で行われたものです。それゆえ、基本性能は今のものとは大違いだというのが、定評です。あるサイトで、オーディオ技術者が。自社のアンプを自分で改良し、部品類をすべて日本製に変え、自分用のアンプを作ったそうです。すると費用は10倍かかったとか。しかし、音質はそれに代えがたいものだったそうです。あのマランツも部品は中国製で、それなりの音はするが、部品を日本製にするととってもいい音になるそうで、幻想の壊れる話です。コンデンサ、特にフィルムコンデンサーの品質は段違いだし、真空管アンプはあれもこれも日本製に変えなきゃ、良さが半減されてしまうそうで、真空管一本差し替えるだけで、これは実証されるとか。メイド・イン・ジャパンはすごいんです。

マランツ、マキントッシュ、JBL, TONNY、と海外オーディオメーカーに憧れて、かつての若い頃は国産を軽んじていたものでしたが、最近あの当時の日本製は海外に大量に輸出

され、高い評価を得ていたのです。中でも、サンスイ、パナソニック（そのころからオーディオなどではこのブランドを使っていたようです）パイオニア、トリオ、それからソニーと名前を挙げるのに苦労しますが、どれもが高評価であったようです。でなければ、マイクとレコーダーはSONYのほぼ独占状態で、モニタースピーカーはダイアトーンという風にはなりません。

しかし今ステレオはどこに行ったんでしょう。大きな家電のチェーンてんに行っても、システムコンポは数台見られるけれど、単体アンプ、スピーカー、CDプレーヤなんか影も拝めない。それでも音響メーカーはしぶとく生き残っているようで、それはそれなりの進化もしているようで、というしかなく、それなりのものもネットで見るほかはなく、情けない思いです。たぶん過去のものになったんでしょう。わかっちゃいたんですが。

しかしです、リサイクルショップに行ってみましょう。その筋の専門店はあるものです。そこには、あっと驚くようなものが、見返すような値段で出ています。昔高かったものは、今もそれなりの値段がついていますが、それでも垂涎の機器が並んでいます。LUXMANのL-560が新古品で11万って、本当か？その横に、知らないけどよさそうな真空管アンプが4万弱。これでいいから、ほしい！と、その店では、リアルタイムで、今も息づいています。私のような人が、JBL 4322の前で立ち続けておりました。もう、チープとは言わせない。そのうち、きっと！と思っています。

書き落としがまた出ました。中華アンプの事です。YOU TUBEでも数多く紹介されていますが、中華タブレットに中華アンプ。安いです、3000円しません。そしてそれが相当な実力であることは、動画を見てもわかると思います。しかし、それは当然のことなんです。整流回路はACアダプターで間に合わせ、それでコストを下げちゃいるけど、肝心な出力回路はYAMAHA製ですから。なんか底の浅い話です。

去年初めて手帳の買いました。通常なら仕事をしているときにこそ、スケジュールを書き止めるために手帳を持つものだと思うのですが、私は仕事を辞めると決めてから手帳を買いました。少し大判の、記入項目など何も書いてない、まるでノートのような手帳です。ですから始めからノートでよかったのかとも思い返しましたが、手帳の装丁の方が丈夫そうだからと思っています。妻は毎年手帳を買い、それに子供達や友人のアドレスを書き写しておりますが、手間の掛かる作業で四苦八苦しています。それも毎年。今なら携帯にパッと入力して、はい終わりですんじやいます。しかし私の手帳はちがっています。自由に書けるノート型ですから、自分で毎日項目を書き入れます。血圧を測れば血圧の項目、歩いた歩数の記入と行く先、そして、ここが私の手帳を持つ眼目ですが、明日は今日歩いたコースの先のあんなところへ行ってみようとしておきます。つい先ごろは、孫にこんな手作りおもちゃを作ろう、それにはこんな木と、こんな材料、それからこう作ろうと書き込んでおりました。先の、自家製本の冊子を作るのも、こうして計画しました。そして翌日その進み具合と反省点、それから達成出来たら二重丸を書きます。さらにテレビとかラジオで聞いた最新情報、感動した言葉等の備忘録としても使います。

つまりは、備忘録、そして明日することの予定表、健康管理などの記録簿といった呈の、やっぱり 手帳 なんでしょうね、呼び方は。そして、明日への日記、昨日の日記でもあるのです。書いておきましょう。目指すものが出来ます。歩くぞ8000歩、でも明日も寒そう。だから × になっちゃうかなあ、また。

## ものを持つということは

---

ものを持っているということは、今の時代では完全に保証されていることだと思いませんか。たとえば本をもって本屋から出て来た時、万引きィ、と追いかけられ捕まえられたとします。それが本当にやましければ、いやこれは私のものだと捕まえられた人は言い訳したくなりますが、どうでしょう。本当はそんなことする必要はありません。偉そうに問い詰められても、一言これは私のものだといえればいいのです。そして、ほら、ここに名前が書いてあるだろうとか、いつどこで買ったものだとかの証明なんかする必要はありません。それが本屋の本で、盗まれたものだと証明しなければならないのは、捕まえた本屋のほうです。それができなければ、不当逮捕不当拘束、で罰せられます。もちろん現行犯であれば、司法警察でなくとも逮捕はできます。万引きは捕まえられます。しかしそれが正当なことだと証明しなければならないのは捕まえたほうで、不当であれば大変なことです。万引きジーマンなんてテレビの番組をやっていますが、あんな偉そうな捕まえ方と問い詰め方ができるのは日本だけです。ものは持っているだけで（現に所持している）その人のものなんです。それほど所有権は絶対不可侵の権利として保証されています。

所有権といいました。私有権と言わないのは、私的所有権を所有権ということからです。いやあ、またまた固い話を思いついたもんですが、所有権が確立されたのはそう遠い昔ではありません。法として出てくるのはフランス人権宣言がはじめです。人権宣言の場合、特に封建的土地所有制度からの解放を目指して、所有権をまさに神聖不可侵のものと標榜し、絶対性を確立しました。固いですねえ、この言い方。ウィキペディアです。すいません。

日本国憲法も第29条に

財産権はこれを侵してはならない

としています。

財産権の内容は、公共の福祉に適合するように、法律でこれをさだめる

私有財産は、正当な補償の下に、これを交渉のために用いることができる

これが29条の全文です。ここでは財産権とうたわれています。つまり物件、債権、社員権及び無体財産権（知的財産権）等を財産として規定し、これを侵してはならないものとししました。それは大日本帝国憲法でもほぼ同様の規定と条文で保障されています。それは今、あの妄言副総理の引き合いに出したワイマール憲法を大日本憲法がお手本にしたからでもあります。そうした国民の要請の中で出てきた財産権の不可侵が結局資本主義の論理であったことは宜なるかなということです。私有財産が資本主義の大元ですから。

今はこんなこと、ごくあたりまえのこととして意識もしません。それが今の憲法の実現したものです。法は法として意識されずに自己を実現します。赤紙一枚で命を捨ててに行くのも法なら、人権の享有を実現するのも法です。そして所有権の絶対も憲法と民法を基本法として実現します。ところがこの民法で、おかしいことが起こります。取得時効、消滅時効というものです。

債権は10年、それ以外の財産権（ただし所有権を除く）は20年の時効期間が経過すると消滅する（167条）。



なんでしょうね、むつかしそうですね。でも、これを知らないと大変なことになります。たとえば消滅時効のうち、特に短期消滅時効とされているものがあります。私たちにとっては年金は特に関心事であります、払われてなかった年金について言われたことが5年の時効でした。20年支払われてなかった年金でも5年にさかのぼっては支払われるが、残り15年分は時効だと国会答弁がされておりました。国民を謀っていても法は時効だと国を庇います。しかし逆に、支払われなかった年金掛け金は、つまり年金の徴収権は2年となっています。2年で支払えとは言われなくなるわけです。ところが年金掛け金は支払っておかないと年金をもらえなくなってしまうことになるかもしれないのですね。これも知っておかないとえらい目にあいます。話がずれました。

ちらっとニュースにもなりましたが。銀行預金で10年以上出し入れがされていない預金通帳の残高は銀行のものになります。この不思議さも時効のなせるわざです。もっとも銀行はこれの請求がなされれば10年以上たっても普通預金の利子をつけて支払いますとは言っております。これは銀行の好意でそうするのだそうです。ということはその裏に支払い義務はないのだけれどというのがあるわけです。ところが金のない政府はこれを没収すると言わんばかりに、国の収入にするといい出しました。しかしそれについてのやんわりとした反論として、銀行は請求があれば支払うと、先ほどの言い方で政府の思惑に反論し、それによってあまり世間で騒がれもせず、うやむやにおわりました。相当な金額だったと思います。どっちもどっちの取り合いですが、結局銀行の利権は守られたということです。筆筒の中に残高10円くらいの預金通帳が眠っていませんか。10年たつとそのお金、銀行のものになってしまいますよ。

しかし法の不思議さはそんなもんじゃ終わりません。善意でか悪意でかは問われますが、ある土地に家を建てて住み続け、その間なんの横槍も入らなければ10年もしくは20年でその土地は占有し続けた人のものになります。もちろん登記さえできてしまい、当然の所有者にもなれます。どうなんでしょう、所有権って神聖不可侵ではなかったんでしょうか。そこに社会の安定のためというお題目が出てきます。10年もたつと、他人の目から見ればその土地は、そこに住んでいる人の土地だと見えるということです。それで社会の秩序をまもることになるって、不思議ですよ。

土地と登記に関しても、不思議なことが起こります。父親が亡くなり、妹が父親名義の土地を相続分だけよこせと主張して裁判を起こしました。ところが、その父親には経済力がなく、実質的にその土地代金のローンを支払ったのは長男で、父親名義の登記は名目だけでありました。もちろん同居していた妹もそのことは知っています。長男側は銀行ローンの支払明細書とかを証拠として裁判に提出し、妹もそのことは知っていたと主張します。そうすると世間の常識としては、名義はどうであれ、長男のものと軍配を上げたくくなりますよね。しかし、法はそうはいわないのです。法が優先され、法律的手続きの整っているほうが正しいといえます。つまり第三者に対抗するために登記はあるので、長男と妹の係争のために法を曲げるわけにはいかないという法理論が貫徹されることになるのです。世の中、法律は世間の常識が整備されて法になってるとは思わないほうがいいです。憲法で保障された財産権も、民法では絶対ではなくなります。そこにもものを持ってるといふことの不確かさが生じます。大体ものなんて持って死なねはしないんで

すから、結局この世のものはすべて借り物と思うことです。と辛気臭い結論になってしまいました。

ということで終わりにしておりましたが、ちょっと片手落ちな気がしましたので、付け加えておきます。民事裁判ではよく、和解 という解決策がとられます。先ほどの件でも 和解 が勧められ、妹側が時価より相当安い金額を兄に支払われて解決しました。つまりはやはり、常識が民事裁判でも通用したということです。基本的に兄が土地代金を支払っていたということが、裁判官の心証を良くしていたのかと思います。

あの、政治に発言をしなかった司馬遼太郎氏が土地バブルの折、土地を公有にしてしまえばいいと言い出しました。今でもその真意を考えることがあります。しかしよくわかりません。バブルにいらだっていた風には思いますが、それだけではなく、農家にとって土地は生産手段であるし、山は自然そのものだし、なんといってもこの国は瑞穂の国ですからそんな風な醜さが嫌悪されたのかもしれない。歴史を俯瞰し続けた人の言葉で、しかも世相に対して初めて発言した言葉に少々戸惑いながら考えています。司馬氏はそのあと直ぐ、急死されました。文学者として、もっと発言してほしかったと思います。

ものを持っているということは、今の時代では完全に保証されていることだと思っ  
ていませんか。たとえば本をもって本屋から出て来た時、万引きィ、と追いかけられ捕ま  
えられたとします。それが本当にやましければ、いやこれは私のものだと捕まえられた  
人は言い訳したくなりますが、どうでしょう。本当はそんなことする必要はありませ  
ん。偉そうに問い詰められても、一言これは私のものだといえればいいのです。そ  
して、ほら、ここに名前が書いてあるだろうとか、いつどこで買ったものだとかの  
証明なんかする必要はありません。それが本屋の本で、盗まれたものだと証明しな  
ければならないのは、捕まえた本屋のほうです。それができなければ、不当逮捕  
不当拘束、で罰せられます。もちろん現行犯であれば、司法警察でなくとも逮捕は  
できます。万引きは捕まえられます。しかしそれが正当なことだと証明しなければ  
ならないのは捕まえたほうで、不当であれば大変なことです。万引きジーマン  
なんてテレビの番組をやっていますが、あんな偉そうな捕まえ方と問い詰め方が  
できるのは日本だけです。ものは持っているだけで（現に所持している）その人  
のものなんです。それほど所有権は絶対不可侵の権利として保証されています。

所有権といいました。私有権と言わないのは、私的所有権を所有権ということから  
です。いやあ、またまた固い話を思いついたものですが、所有権が確立されたのは  
そう遠い昔ではありません。法として出てくるのはフランス人権宣言がはじめです。  
人権宣言の場合、特に封建的土地所有制度からの解放を目指して、所有権をまさ  
に神聖不可侵のものと標榜し、絶対性を確立しました。固いですねえ、この言い  
方。ウィキペディアです。すいません。

日本国憲法も第29条に

財産権はこれを侵してはならない  
としています。

財産権の内容は、公共の福祉に適合するように、法律でこれをさだめる  
私有財産は、正当な補償の下に、これを交渉のために用いることができる  
これが29条の全文です。ここでは財産権とうたわれています。つまり物件、債権、社員権及び  
無体財産権（知的財産権）等を財産として規定し、これを侵してはならないものとししました。それ  
は大日本帝国憲法でもほぼ同様の規定と条文で保障されています。それは今、あの妄言副総理  
の引き合いに出したワイマール憲法を大日本憲法がお手本にしたからでもあります。そうした国民  
の要請の中で出てきた財産権の不可侵が結局資本主義の論理であったことは宜なるかなという  
ことです。私有財産が資本主義の大元ですから。

今はこんなこと、ごくあたりまえのこととして意識もしません。それが今の憲法の実現した  
ものです。法は法として意識されずに自己を実現します。赤紙一枚で命を捨ててに行くのも法なら  
、人権の享有を実現するのも法です。そして所有権の絶対も憲法と民法を基本法として実現し  
ます。ところがこの民法で、おかしいことが起こります。取得時効、消滅時効というものです。

債権は10年、それ以外の財産権（ただし所有権を除く）は20年の時効期間が経過すると消滅  
する（167条）。

なんでしょうね、むつかしそうですねえ。でも、これを知らないと大変なことになります。たと  
えば消滅時効のうち、特に短期消滅時効とされているものがあります。私たちにっては年金は  
特に関心事であります。払われてなかった年金について言われたことが5年の時効でした。2  
0年支払われてなかった年金でも5年にさかのぼっては支払われるが、残り15年分は時効だと  
国会答弁がされておりました。国民を謀っていても法は時効だと国を庇います。しかし逆に、支  
払われなかった年金掛け金は、つまり年金の徴収権は2年となっています。2年で支払えとは言  
われなくなるわけです。ところが年金掛け金は支払っておかないと年金をもらえなくなってしまう  
ことになるかもしれないのですね。これも知っておかないとえらい目にあいます。話がずれました。

ちらっとニュースにもなりましたが。銀行預金で10年以上出し入れがされていない預金通  
帳の残高は銀行のものになります。この不思議さも時効のなせるわざです。もっとも銀行はこれ  
の請求がなされれば10年以上たっても普通預金の利子をつけて支払いますとは言っており  
ます。これは銀行の好意でそうするのだそうです。ということはその裏に支払い義務はないのだ  
けれどというのがあるわけです。ところが金のない政府はこれを没収すると言わんばかりに、国  
の収入にするといい出しました。しかしそれについてのやんわりとした反論として、銀行は請求  
があれば支払うと、先ほどの言い方で政府の思惑に反論し、それによってあまり世間で騒がれ  
せず、うやむやにおわりました。相当な金額だったと思います。どっちもどっちの取り合  
いですが、結局銀行の利権は守られたということです。筆筒の中に残高10円くらいの預金通帳が眠  
っていませんか。10年たつとそのお金、銀行のものになってしまいますよ。

しかし法の不思議さはそんなもんじゃ終わりません。善意でか悪意でかは問われますが、あ  
る土地に家を建てて住み続け、その間なんの横槍も入らなければ10年もしくは20年でその土

地は占有し続けた人のものになります。もちろん登記さえできてしまい、当然の所有者にもなれます。どうなのでしょう、所有権って神聖不可侵ではなかったのでしょうか。そこに社会の安定のためというお題目が出てきます。10年もたつと、他人の目から見ればその土地は、そこに住んでいる人の土地だと見えるということです。それで社会の秩序をまもることになるって、不思議ですよ。

土地と登記に関しても、不思議なことが起こります。父親が亡くなり、妹が父親名義の土地を相続分だけよこせと主張して裁判を起こしました。ところが、その父親には経済力がなく、実質的にその土地代金のローンを支払ったのは長男で、父親名義の登記は名目だけでありました。もちろん同居していた妹もそのことは知っています。長男側は銀行ローンの支払明細書とかを証拠として裁判に提出し、妹もそのことは知っていたと主張します。そうすると世間の常識としては、名義はどうであれ、長男のものと軍配を上げたくくなりますよね。しかし、法はそうはいわないのです。法が優先され、法律的手続きの整っているほうが正しいといえます。つまり第三者に対抗するために登記はあるので、長男と妹の係争のために法を曲げるわけにはいかないという法理論が貫徹されることになるのです。世の中、法律は世間の常識が整備されて法になってるとは思わないほうがいいです。憲法で保障された財産権も、民法では絶対ではなくなります。そこにもものを持ってるといふことの不確かさが生じます。大体ものなんて持って死なねはしないんですから、結局この世のものはすべて借り物と思うことです。と辛気臭い結論になってしまいました。

ということで終わりにしておりましたが、ちょっと片手落ちな気がしましたので、付け加えておきます。民事裁判ではよく、和解 という解決策がとられます。先ほどの件でも 和解 が勧められ、妹側が時価より相当安い金額を兄に支払われて解決しました。つまりはやはり、常識が民事裁判でも通用したということです。基本的に兄が土地代金を支払っていたということが、裁判官の心証を良くしていたのかと思います。

あの、政治に発言をしなかった司馬遼太郎氏が土地バブルの折、土地を公有にしていればいいと言い出しました。今でもその真意を考えることがあります。しかしよくわかりません。バブルにいらだっていた風には思いますが、それだけではなく、農家にとって土地は生産手段であるし、山は自然そのものだし、なんといってもこの国は瑞穂の国ですからそんな風な醜さが嫌悪されたのかもしれない。歴史を俯瞰し続けた人の言葉で、しかも世相に対して初めて発言した言葉に少々戸惑いながら考えています。司馬氏はそのあと直ぐ、急死されました。文学者として、もっと発言してほしかったと思います。



NHKの隠れた人気番組、クールジャパン。この番組を妻は録画してでも見えています。特に何かきっかけがあって見始めたというわけではないのですが、かっこいい日本を在日の外国人がテーマに沿って取材し、それぞれの国の文化と比較して気楽に討議しながら紹介してくれます。私も最初は、逆に気付かされることが多く、面白く見てました。こんなところを外国人はクールだと感じるのかとびっくりします。私たちが忘れてきた日本とか、置き去りにしてきた日本、かと思えばそんな特別とも思えない日常の日本、そんな日本を外国人が探訪し、紹介します。それが見てるものには面白い。さらにスタジオでの彼らのコメントが文化の違いをくっきりさせます。コンビニで安いもの一個買っても、ありがとうございますと言ってくれる、レジ袋に入れて手渡してくれる。確かに私たちも、これじゃ申し訳ないと思うような買い物でそんな丁寧な対応をしてくれると少々面はゆい思いをします。しかしそれは、日本では普通でしょ？と思いたい。ところが外国では違うらしい。さらに少々のお釣りと、キャンディをくれて清算される所もあるらしい。それも案外多数の国でそうだと行ってました。これはびっくりです。1円でもきちんよお釣りを渡すのが当然の日本人が、外国で飴玉くれて終わりにされたら当惑すると思います。計算するのが面倒だからという、言い訳にもならないコメントがありました。それでいいのかなあと思ってしまうのは日本人だからでしょうか。そういえば、日本でも支払いに1万円札を出されると、それは困ると拒否できるって知ってましたか。なにか法律でそう決まってるらしいです。そういえば昔、東京駅や上野駅では1万円札を少々手数料を取って両替してくれる商売がありました。30円とか50円とかの手数料だったと思います。今では切符の自動販売機が1万円札を受け付けますから、そんな商売も無くなったんでしょうね。今ではおサイフケータイなんてものもありますから。

他のTV局でも、なんでもワールドランキング ネプ&イモトの世界番付とか世界の村で発見！こんなところに日本人など、同じアイデアの番組をやってるようです。和風総本家なんか、逆に日本にだけ限定した、同じ趣旨の放送かとおもいます。この種の番組を見て、日本はまだ大丈夫と思いついたりしているのは私だけでしょうか。こんな番組を乱したのは、あの2011年東北震災以後です。あの失われた20年以後ではありません。日本はまだ大丈夫だと思いたい、そんな心情がこんな番組で満たされます。

しかし感傷に浸ってはいけません。これらは逆の意味での日本論ではないかと思えます。日本人は外国からの日本批判が大好きでした。たとえば菊と刀、ジャパンアズナンバーワンなど日本はこうだと外国人に指摘されるのを喜んで受け入れました。菊と刀では、日本人特有の恥の文化を指摘され、それが特有かと思いつききっかけになったと思えます。菊と禅などという本もあったと思えます。菊と刀は古い本でしたが私たちが学生だった頃、復活してブームになっていたと思えます。高い本でした。その意味では、小泉八雲の日本を紹介した文章もやはり日本論と言えると思えます。しかし昔の日本ではやはり、今の日本は外国に比べてここが劣っていると指摘されているほうがよく読まれていたと思えます。自虐的日本人観と言えるでしょう。ですが、劣っているところを指摘され、それを自覚し、克服しようと頑張る気持ちもあったのではないでし

ようか。私たちは追いかける立場でしたから。それがジャパン アズ ナンバーワン と持ち上げられたころからまるで潮が引くように沈滞してきました。日本人は外国からの日本論を気にしなくなっ多ように思います。また世界も日本から興味を失ったように見えます。まるで存在感が無くなったみたいです。バブルがはじけて日本人が自信を無くした、あの失われた20年がそうでした。ところが。あの不幸な大震災での日本人の立ち居振舞いが世界に報道されて後、世界はもう一度日本に目を向けました。我々はその居ずまいを世界から注目されるなんて思いもしませんでした。それが当然のたたずまいであったからで、意識もしてなかったからです。私たちは大震災に打ちひしがれました。だがそれに耐え、不運が頭の上を通り過ぎていくのをじっと忍んで生きました。いまだ、福島最悪を抱えて怯えながら、忘れたふりして生きています。そんなことを一瞬でも忘れさせてくれ、自信を取り戻した気にさせてくれるのが、こんな番組のような気がします。頭にいつも押し掛かっている福島原発の悪夢。

私たちはもういい気になったりはしません。ここが遅れているといわれ、自虐的にそれを受け止めたりもしません。日本はもうものづくり大国でもなくなりました。職人の国でも、科学技術大国でもありません。日本的な成熟国家になってゆく道程を踏み出して早や半ばまで来ているのだと思っています。日本は、 不思議の国 日本 **Cool Japan**なんです。

## ヤマハのスピーカの話です

---

ヤマハがオーディオに初参入してくるときにはじめて作って出してきたスピーカーが、グランドピアノの天板のような形状だったという話です。せめて品番でもと、ネットを検索してみました。しかし古い話ですから、容易に見つかりませんでした。最近になってやっとYAMAHAスピーカー NS 15のキーワードで画像と関連する記事の出会いがありました。覚えていた通りのまるでマンボーのような形状のスピーカーに巡り合えました。海にプカプカ浮かんでいるあの魚のマンボーです。そのヤマハのスピーカのボックスが後面開放型だったとは知りませんでした。それから今もヤフーオークションでたくさん出品されていることも知りました。物珍しさでご覧になるのもいいかもしれません。

ラジカセをおもちゃに、いろいろいじって遊んでいるのは私だけではなかったようです。たとえば真空管ラジオなら早や骨董品の類に入っていますが、ラジカセは、今となってはただの時代遅れな中古品でしかなく、リサイクルショップでも買い取ってはくれないものになっています。先日近くのそういったショップをのぞいてみましたが、一台だけ、CDプレーヤー NGとあってそれなりの値段がついておりました。ところが、ディスカウントショップで新品をその値段より安く売ってました。もう誰も買わない、たぶん振り向かない品物です。ですから、いじって惜しいものではありませんから、いじくり倒してみましよう。私は、スピーカーを本体からはずし、箱に入れて鳴らしています。いやァー、昔の日本製は壊れません。小さな一枚のボードにメインの集積回路と模型のような電源トランス、ペラペラのスピーカーで出来たラジオが、箱のおかげか、厚みのある力強い音を聞かせてくれます。テープレコーダーの部分も今直そうとすれば、秋葉原などではプーリーをまわすゴムバンドが手に入るものもあるらしいのですが、もういいじゃありませんか。外部アンテナを付け、FM放送の感度を上げて、500HZから15000HZの狭い音域で音楽を聴けば、昔に戻れます。それぐらいの手間暇をかける価値は十分ありますよ。



若い頃、私は低血圧もあって、とても朝寝坊でした。ところがこの頃は年の性か、四時とかに目が覚めてしまいます。今頃は寒くて四時とはいきませんが、少しぐずぐずしていても五時半には起き出しています。すると、なにもすることがありません。以前はテレビを点け、TVショッピングなんかを見るとはなしにみておりました。しかし、そんなことには飽きてしまい、そこで始めたのが朝食作りです。

といっても、急に何もかも出来たわけではなく、最初に作ったのは ワンプレート でした。つまり、大きな大皿に何もかも盛り付けたものです。一枚の皿に食パンを焼き、サラダを盛り付け、果物を置きます。これをするのに最初は一時間かかりました。まず第一に量がわかりません。レタスを今でも重宝に使っていますが、葉を何枚使えばいいのか解りません。しかし、包丁を使うと茶色く変色するという知識はあります。で、よく洗って手でちぎります。

お父さん、それってテレビ？

そうです、某国営テレビの ためして ガッテン からの知識です。すこしシンナリしたレタスも、ぬるま湯に漬けておくとパリッとするというのもおなじことです。しかし最初はカミさん、よおく洗った？と信用がありませんでした。

そうなる、気になるのが包丁の切れ味です。刃を親指で触って、ふむ、切れない、と砥石で研ぎます。カミさんが何でも荒っぽく切っている包丁の刃こぼれまで綺麗に研ぎあげます。これには感謝されました。そうなる、カミさんの包丁使いが気に入りません。そんな使い方をするから、刃こぼれするんだと、夫婦喧嘩の元になります。また研がにゃあいかん、とブリブリ怒って、回転研ぎ機を買ってきました。さらに、新しい包丁の吟味です。セラミックが良いけど高いしなあー、ヘンケルがいいぞ、いや、やはり鉄の和包丁に限る、となつて天満屋で買おうと見てみましたがその高価さにびっくりし、ニトリで鋼を挟み込んだ包丁を買ったのが今の包丁です。これを今もせっせと研いで使っています。

次に気になるのが食器です。サラダとかですから最初はどうでも良かったのですが、なんとなく家にある器に精彩がないような気になって、あちこちの食器やさんでまじまじと見入るようになりました。そして一つを手に取り、持ち上げてみたり横から見たり、ためつすがめつ、というのでしょうか、眺め回します。そして、ごくたまに妻と私の分として二個買います。失敗したのがありました。うどん鉢です。軽いのがいいと妻がいいしますので、磁器の軽い鉢を買いました。軽いと言う事は、薄いと言う事で、うどんを入れると熱くて持てません。うどん屋さんの鉢が陶器で厚手の生地なわけが一辺

に解りました。それから、イタリア料理の店に行くと、白い皿を多用しており、味気ないこととっておりましたが、これが使い勝手が良いんです。丸いの、四角いの、楕円形と色々買い揃えました。

包丁、食器、小道具、こんなものを買って揃える、これが男の料理です。そして最初はサラダしか作りませんでした。本屋で料理本を読み漁ってだんだんと手を広げ、スイーツとかスープも色々やってみました。ですからスープは得意になりましたが、朝からスープは欲しくないと妻がいますので、夕飯を私が作らなければならないとき、スパゲッティとともに作ったりしております。イタリア料理は手軽です。このスパゲッティも、塩バターパセリの基本が一番肝心です。にんにくは包丁の腹で潰し、みじん切りにして火をつける前のフライパンにいれ、火をつけてゆっくり熱し、それからたまねぎのみじん切りを入れて透明になるまで炒め、アルデンテ一歩手前のパスタを投入し、手早く絡めてパセリを入れ、バターを風味付けに入れ、バターが絡まったら塩コショウで味を調べ、完成です。手早くフライパンを振り、菜ばしを振って作りますから、これは男が作ったほうが上手く出来ると思いました。炒飯も、基本の炒飯がありますが、他の種類のスパゲッティも、後はちょっと手を加えるだけです。そして、スープ、トマトのサラダ、これが我が家のフルコースです。勿論ちょっとしたスイーツも手作りします。これは孫に好評でした。

パンも焼きます。昔はオーブンで、今はパン焼き器で。パン種を作ってオーブンで焼くこともあります。しかし二度手間なので、四角しかできませんが、パン焼き器をセットしておくと、朝良いにおいが出ます。端っこを切って一番に食べられるのは作った者の贅沢です。

いろいろと書き並べてきましたが、やはり一番難しいのは和食であり、お惣菜だと思えます。京都のおばんざいは有名ですが、しまつを旨とし、もったいない精神で作るおばんざいはどうなんでしょうね、もうちょっと贅沢してもいいんじゃないでしょうか。月の\*日と\*日はおかゆをすすり、大根の皮までおしんこにして食べる、いいじゃありませんか。でも、茶殻まで佃煮にしては、食べたくないなあ。しかし、京料理とかプロの出汁のとり方は勉強になります。が、贅沢なとり方ですよ。とは言っても、讃岐うどんの出汁のとり方もおなじです。

中華料理って、中国にはもう鉄がないので何もかも一本の中華包丁で切り、一個の中華鍋で作るようになったんです。農機具も、一本の鍬で何もかも作業します。日本のように種々色々な工夫のされた包丁とか鍬はありません。古代に鉄を取り尽くしたからです。

団塊の諸君、料理は創造ですぞ。これを作ろうと思うと、材料を選び、器を並べ、

火を使い、包丁を使って種々に切り、調理の順番を考えて、器に盛ります。最初から手際よく、美味しく作れるはずがない。しかし、一品でいいから作ってみましょう。それが突破口になっていろいろな広がります。自分で作った酒の肴は、美味です。自分が食べたいものを自分でつくる、そして飲む酒は無上の美味さです。そしてあちこちの料理を食べてみて、ふむ、これはこう作るのか、こう盛り付けると綺麗に見える、と美食の楽しみが倍増します。

男子、厨房に入って、妻から、料理の楽しみを奪おう！

材料の吟味に、スーパーに付いて行って見て回るのも楽しいもんですよ。

61才の5月の事でした。丸亀の香川労災病院で健康診断を受けた結果から、高松よりメタボ指導がきました。多分保健師の人だろうと思います。当時メタボは、ウエストが85cm以上という、取ってつけたような基準で決められていたはずですが。私はそう太っていたわけでもないと思うのですが、体重が65kg、ウエストはその85cmでした。健診の結果のことで保健師さんが来ると言うので、本当はドキドキしていました。大体病院で検査するなんて、嬉しくてするわけではありませんから、メタボ指導とは思いがけないことで、なにか悪い病気でも見つかったのだろうかと取り越し苦労で気もそぞろに夫婦で待っておりました。すると、ちょっと中年に入りかけた、ついでに自分も少し太っている保健師がノートパソコンをひっさげてやってきて、ダイエットしなさい、毎日体重を量って、一月ごとに報告しなさい、目標体重になれなかったら毎月毎月、もう半年指導に来ますよ、と脅して帰りました。ダイエットとは思っても見なかったことをいわれ、気が抜けたようになりましたが、これはいい機会だから痩せなさい、との厳命が妻から下りました。それから、しぶしぶ、いやいや、ダイエットにはげむこととなりました。あれから三年、結果からいいますと、現在、今の今、今日の体重は54,1kgです。ダイエットを始めると、私の体重は一度もリバウンドすることなく減り続け、最低時は53,1kgにまでなりました。自慢たらしくて申し訳ありませんが、BMI値で言うと私の身長では54,1kgが痩せすぎの上限なので、今はもう充分痩せています。お蔭で脂質の値もコレステロールも正常値になり、ほっとしておりますが、逆に栄養不足とか、骨粗そう症なんかが心配だし、糖質不足は将来ぼけるとかいますから、そっちのほうが不安になります。こうすればこうなる、そうしなければなくなると今は兎に角情報過多です。整理しましょう。なにが正解なのかわかりませんが。

ダイエットの方法ならば、知識だけは沢山持ってますから、逐一実行することにしめすと、メタボ指導の保健師さんにいいました。いまでもダイエット情報のテレビ番組がありますが、当時はブームでしたから知識はしっかり溜め込んでおりました。ただ実行ないだけ・・・。反省しました。我が家の階段を、手すりにつかまらなければ膝が辛いなんて、まるで年寄りでした。じゃあ何をやったのか。当然ですが、先ず歩くこと。次に、筋肉に少々負荷をかける体操をすること。脂肪と糖質を控えた食事にする、塩分を極度にへらす、それも殆ど無塩食に近いものにする。ここが大事です。無塩食というのがポイントです。そして夕食は午後6時までに食べ終わり、以後カロリーのある物は一切口にしない。今もこの食事内容で過ごしておりますが、まるで修行僧みたいと娘

に言われます。幸い私は下戸で、お酒は一切うけつけませんので、それから来る暴飲暴食とは無縁でしたから、むしろ過ごしやすいかったです。ただ、夜が眠れませんでした。空腹で、寝付かれません。そんなときのよすがは、30日経てば体が慣れるという知識でした。30日経てば、と腹を抱えておりました。懐石とはこのことでしょう。

今も朝は空腹で目が覚めます。胃の辺りが苦しいほどの空腹感が襲ってきて目覚めます。それから、体重が減りだすと、起立性低血圧を起こします。目の前を銀幕が被い、何かにつかまらなさと立っていられなくなります。尾籠な話ですが、便秘にもなります。十分に食べないから腸が動かないのでしょうかね。みなさん、ダイエット法はなんでもいいんです。食べなきゃやせます。バランスの取れた食事、なんてあったら見せてもらいたいぐらいのものです。血液検査の結果を見て、自分で判断しましょう。楽な方法はありません。しかし30日経てば、体の方が慣れてくれます。

いまや日本全国、総健康指向の時代です。夜、この寒さの中でも歩いている人がいます。歩くのがいい、山登りがいい、あれを食べるといい。そうでしょうか。日本も豊かになりました。

## 恥ずかしがらず、スーパーへ行ってみましょう

私のかみさんと行くんです。かみさんは慣れてるから、自分の買いたいものの場所にさっさと行って、私なんかほったらかしです。そのうえ、あれ買ってくるの忘れたといって、とってこさせます。私はというと、あれがどこにあるかも十分解らず、ただ見当をつけて探すことになり、あったらあったで品物一つを手にもって、今度はかみさん探しでスーパーのなかをあっちへうろうろ、こっちでうろうろ、まるで檻の中のクマになります。みじめなもんです。しかし、スーパーは面白い。

そのスーパーに、一人でゆかなくてはならなくなりました。妻が不在だからです。そうになると、案外気おくれするもんですね。まず、何を買うかを決めなくてはなりません。当然のこととお思いでしょうが、スーパーで買い物をするということは、たとえば夕食に何を作って食べるかを決めなくてはならないということです。それが決まると、今の手持ちの材料はこれこれがあるから、あとこれこれの材料を買わなければならないと考えなくてはなりません。これが難しい。何を作って食べるかが決まらない。また、品数を多くしようとする、複雑極まりない。しかし、一日三十種類のものを取らなきゃならないと、ちょっと強迫観念に囚われて考え込んでしまいます。それに、最近では炭水化物の取りすぎはご法度といった風潮ですから困ったもんです。もちろん、私も朝はパン食で、食パン六枚切りが一枚。それにジャムなんぞタップリ塗ろうものなら、かみさんが掬い取ってしまいます。コーヒーも砂糖二杯は入れないとおいしくないと思っているのに、一杯にしなさいと言われてしまいます。朝食はそれでいいとして、今日の昼食と夕食です、その材料を調達せねばなりません。と、考えるとつい面倒くさくて、お惣菜と弁当に目が行ってしまいます。これならごはんも炊かなくていいし、洗物もしなくていい。しかしそれを妻は許さない。こまったもんです。

男の料理の定番と言えば、カレーと決まっています。ところが、この年になるとカレーがおいしくない。むしろ味噌汁に焼き魚がいい。もちろんご飯は炊きたてで。どうしてこうなるのでしょうか。白人は年とっても、体に悪いと知ってても、固いステーキの脂身タップリを食べないと満足しないらしい。子供のころからそういう食生活をしてるからで、日本人は様々なものを幼児期から食べさせられ、子供時分は食べられなくとも、その味を知ってるから、年取っても食べられるという説があります。日本人がスレンダーで長生きなのは、年齢に合わせた食生活ができるからであって、日本食のせいではない、というわけです。血管の中を動物性脂肪粒がダラッと流れないと満足しないなんて、年取ってきた日本人には想像が付きません。ハウレンソウのおひたしに秋刀魚の塩焼き、味噌汁とごはんなんて、この年になるとたまりません。しかしこれでも若い時は一人前に、ステーキ250グラムを食べていたんです。年取ると肉が食べないと、若い人でも一人前の口をききだしますが、日本の食文化に感謝しなさい。こんなに豊富な食材と料理法がある国はありませんよ。おふくろの味が長命につながります。しかし、今はどうでしょう。幼児にハンバーグばかり食べさせる母親が散見されます。ファミレスの時代ですから。食べなくとも、いろんな料理を食べさせましょう。時々間違えて、さび抜きじゃない寿司も食べさせておけばいいんです。肉を食わせて、おひたしと豆腐です。

しかし・・・、と思いながら、陳列棚を眺めました。ん・・・？カレールーってこれだけ？いや、確かに色とりどり、たくさんあるのです。しかし、むかし昔聞いた名前もモノばかり。ハウスバーモントカレーって、あの西条某のコマーシャルソングさえ耳に残っています。ジャワカレー、印度カレーと、パッケージこそ鮮やかになっていますが、懐かしいと言って捨てられるものばかり。新しいものの、学生時代に見聞きし、買ったこともあるものばかり。なんだ、これは。わたしは、カレールーが初めて市販された時から知ってるんだぞおーと言ってやりたい。これは、一大発明だったのです。チキンラーメンもそうでした。インスタントコーヒーも。これら大発明は、私たちの時代のものでした。あのネスカフェのインスタントコーヒーの最初の頃の苦かったこと。所詮インスタントなんてこんなもの、と思い、しかし本物のコーヒーなんて高根の花。学生時代だってずうっとこれでした。ちょっと気取って、カリタとかメリタの紙フィルターで挽いた豆からコーヒーを飲むようになると、ブルジョワだなあとからかわれました。豆はモカがいい、キリマンジェロは高くて無理、なんて講釈したものです。

しかし、カレールーの陳列棚は、昔懐かしの品物ばかりが目につきました。あれから何か目新しい発明はあったのでしょうか。結局昔懐かしのルーを買い求め、ちょっと摘まむお菓子類と見に行きました。あにはからんや、ここでも同じ感慨にふけりました。森永ミルクチョコレート、明治の板チョコもあります。えっ、チャイナマーブル、ゼリービーンズ、さくまドロップ、源氏パイ、もっと時代をさかのぼり、動物ビスケット、同じくABCビスケット。かんぱんは非常食で今でもあることは知っていました。しかし都こんぶはないだろう。ぽんかん飴にとうがらし。とうがらしというのは田舎でおばあちゃんに食べさせてもらった駄菓子です。黒棒、ミルクパン、ポンせんべい。挙げたらきりないほどの懐かしさです。エビセンなんかは、裏ワザとしてインスタントラーメンに入れると出汁が出ておいしくなったものでした。ああ、ここにも進歩がない。ぬれせんべいは、その意味から言って、画期的な、とは大げさですが、あたらしいものの筆頭かもしれません。グミってありますが、あれはゼリービーンズの亜流でしょう。孫が好きですが。

それやこれやを再発見し、びっくりして肩の力が抜けました。がっかりしたとかではなく、ほっとした気分です。私の知らないものも数多くあるのはわかっています。しかしあれらが今も生き残り、現役なんですから。子供たちもあのお菓子を食べて大きくなってゆくのでしょう。いや、私は自分の子供にあれらを食べさせたかなあ。